

令和3年度「まちかどコメンテーター」 アンケート調査結果 ＜抜粋版＞

鹿児島市

・第4回

- 1 性の多様性について（人権推進課）
- 2 郷土芸能の保護について（文化財課）
- 3 子どもの未来応援条例（仮称）の制定について（こども福祉課）

目 次

I	調査の概要	1
II	性の多様性について.....	4
III	郷土芸能の保護について.....	12
IV	子どもの未来応援条例（仮称）の制定について	24

I 調査の概要

1. まちかどコメンテーターの概要

(1) まちかどコメンテーターとは

市民の皆様に「まちかどコメンテーター」になってもらい、市民目線の意見・提言を聴取するとともに、市民のニーズを把握し、市政運営の参考とさせていただくものです。

また、アンケートを通じて、市民の皆様の市政への関心・興味を深めていただくことも目的としています。

(2) まちかどコメンテーターの選定方法

市内に住むか通勤・通学する 18 歳以上の方を対象とし、一般公募及び住民基本台帳から無作為抽出した市民 2,500 人への就任依頼において、応募・承諾いただいた方により構成しています。

(3) 任期

令和 3 年 7 月 1 日～令和 4 年 6 月 30 日

(4) 人数

328 人（第 4 回調査実施時点）

(5) 所管課

市民局 市民文化部 市民協働課

2. 第4回調査の概要

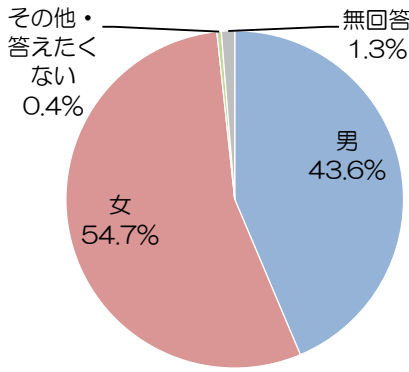
(1) 調査概要

テーマ/担当課	性の多様性について	人権推進課
	郷土芸能の保護について	文化財課
	子どもの未来応援条例（仮称）の制定について	こども福祉課
調査期間	令和3年11月5日～11月26日	
回答率	72.0% (236人)	

(2) 回答者属性

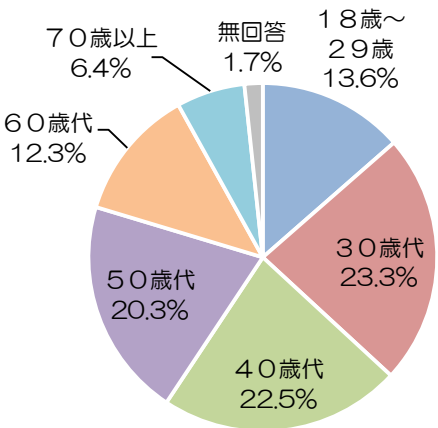
① 性別

選択肢	回答数	割合
男	103	43.6%
女	129	54.7%
その他・答えたくない	1	0.4%
無回答	3	1.3%
サンプル数	236	100.0%

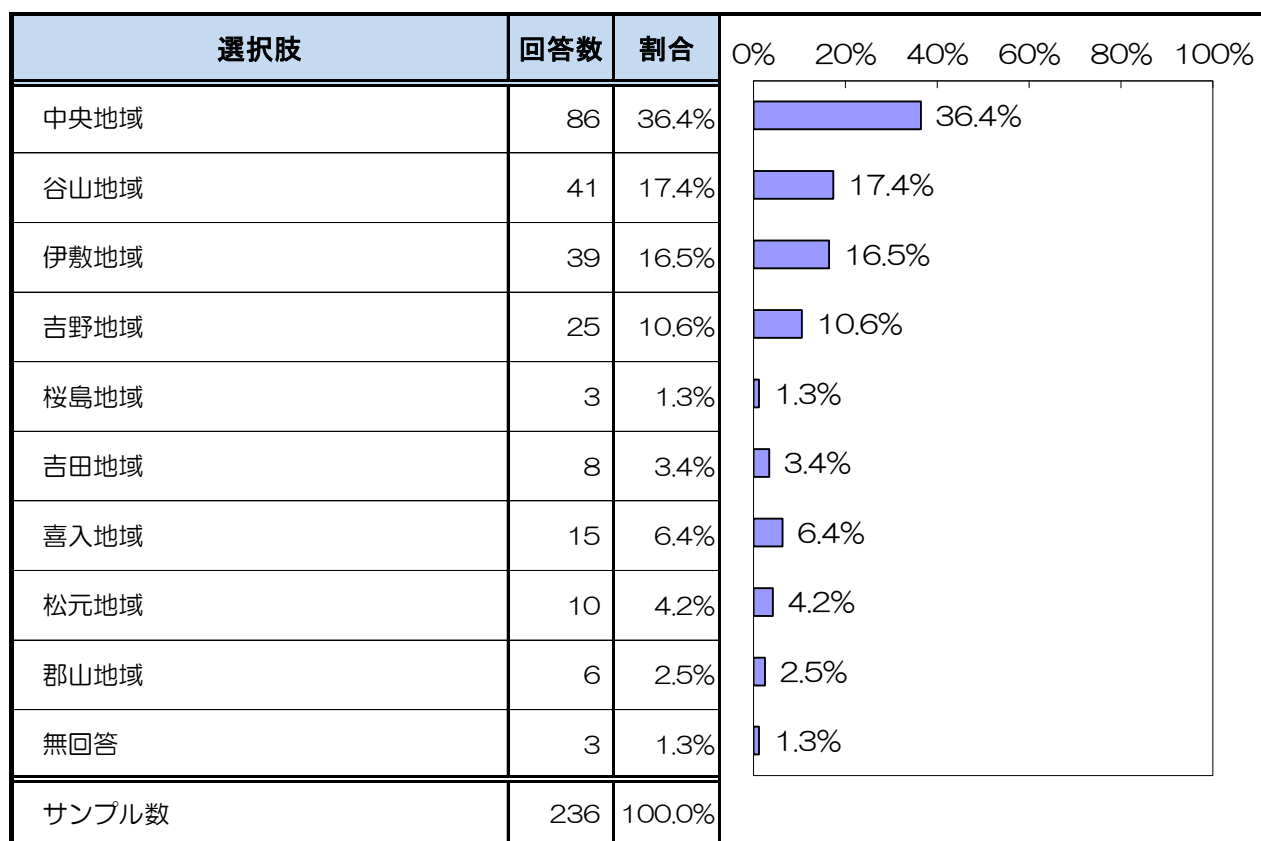


② 年代

選択肢	回答数	割合
18歳～29歳	32	13.6%
30歳代	55	23.3%
40歳代	53	22.5%
50歳代	48	20.3%
60歳代	29	12.3%
70歳以上	15	6.4%
無回答	4	1.7%
サンプル数	236	100.0%



③ 居住地



3. 報告書上の留意点

- ・ 構成比は小数点第2位以下を四捨五入して表示しているため、合計が合わない場合があります。
- ・ 複数回答可の質問の構成比の合計は100%を超えることがあります。
- ・ 設問文や選択肢等の表記において、原文より変更している場合があります。
- ・ 本報告書<抜粋版>においては、その他への具体的回答内容及び自由回答設問の回答内容部分を割愛しています。

Ⅱ 性の多様性について

1. 調査の目的

本市では、市民一人ひとりの人権や多様性が尊重され、誰もが安心して暮らしていける社会の実現に向けて人権教育・啓発基本計画を策定し、啓発活動に取り組んでおります。その取り組みの一環として令和4年1月からは「鹿児島市パートナーシップ宣誓制度」を導入いたします。今回は、市民の皆さんに性の多様性（性的少数者（LGBTなど）やパートナーシップ宣誓制度など）についての考えをお聞かせいただき、今後の施策の参考とするために、アンケートを実施しますので、ご協力をお願いいたします。

2. 調査結果を受けて担当課（人権推進課）からのコメント

「LGBT」という言葉については、83.5%の方が「知っていた」と回答されており、浸透してきていることが分かりますが、「SOGI」については79.7%が「知らなかった」と回答していることから、市民の方々の性の多様性に関する基礎知識の向上を図る必要があると考えます。

また、72.9%の方が現在の社会は性的少数者の方々にとって生きやすい社会だと「思わない・どちらか言えば思わない」と回答され、その理由として、70.3%の方が「周囲の人の理解が得られないから」と回答していることから、性的少数者の生きづらさを解消するためには、当事者への社会的理解を広げていくことが課題であると考えます。

性的少数者の方々が生活しやすい社会になるため必要な取り組みとしては、「教育現場での啓発活動」（68.6%）や「行政による制度や環境の整備」（63.6%）を多くの方が選択していることから、子どもたちからの教育・啓発や性的少数者の支援制度の創設などが重要視されていることが分かりました。

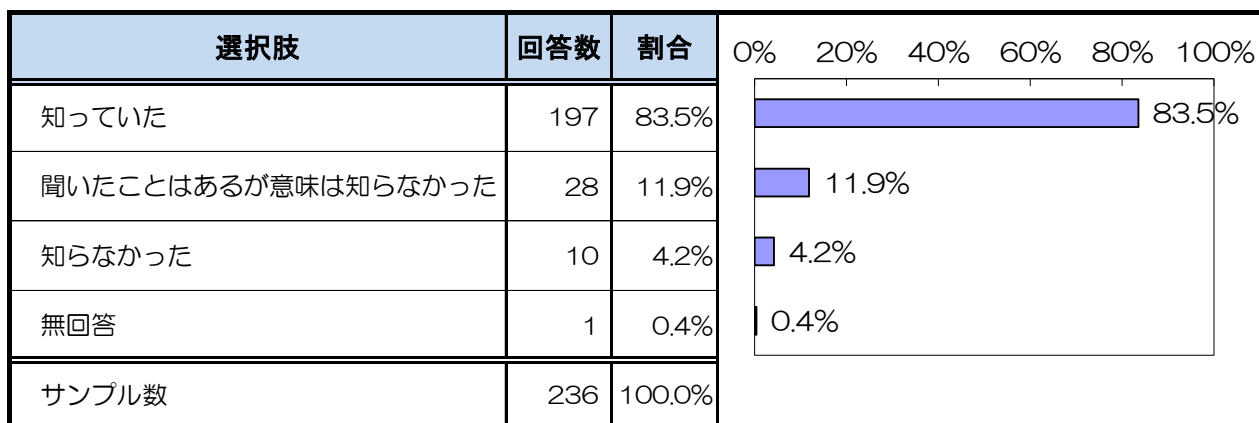
なお、「鹿児島市パートナーシップ宣誓制度」については、「知らなかった」と回答された方が52.5%であったことから、制度のさらなる周知啓発が必要であると考えおります。

今回の調査結果を踏まえ、性の多様性について社会的理解を広げるための取り組みを進めてまいります。

3. 調査結果

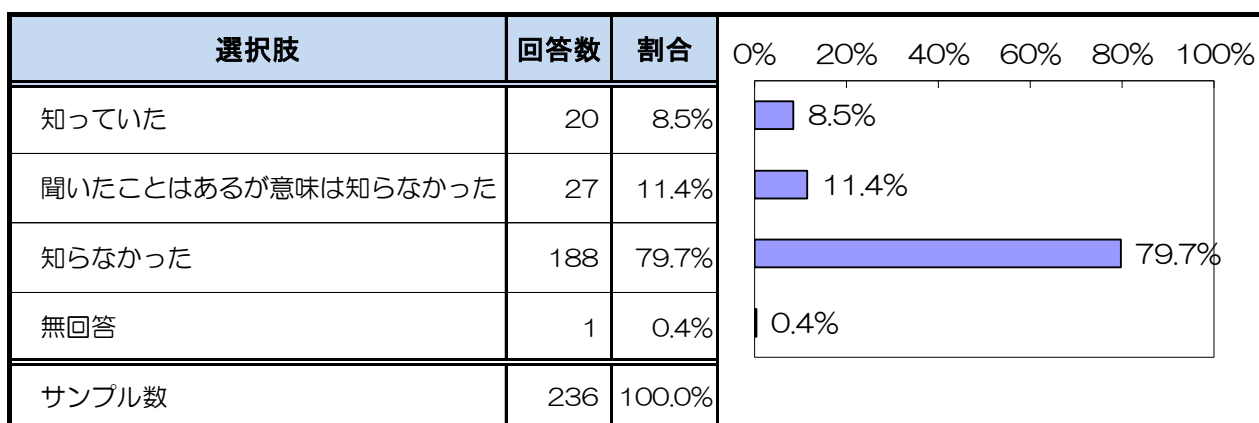
問1 性的少数者の総称の一つである「LGBT」という言葉を知っていましたか。(単一回答)

「知っていた」が83.5%、「聞いたことはあるが意味は知らなかった」が11.9%、「知らなかった」が4.2%となっています。



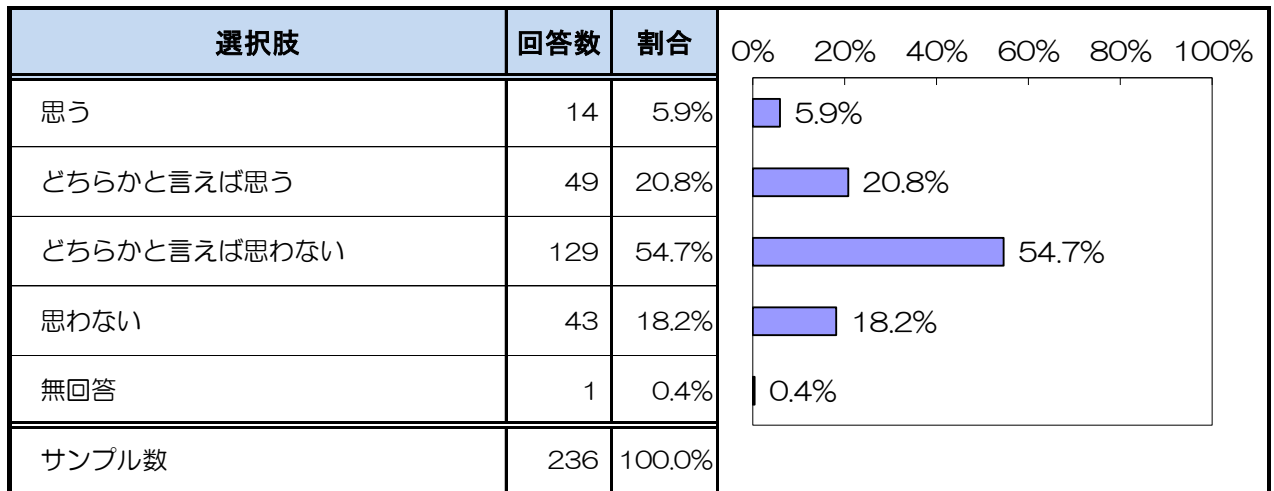
問2 「SOGI (ソジ・ソギ)」という言葉を知っていましたか。(単一回答)

「知っていた」が8.5%、「聞いたことはあるが意味は知らなかった」が11.4%、「知らなかった」が79.7%となっています。



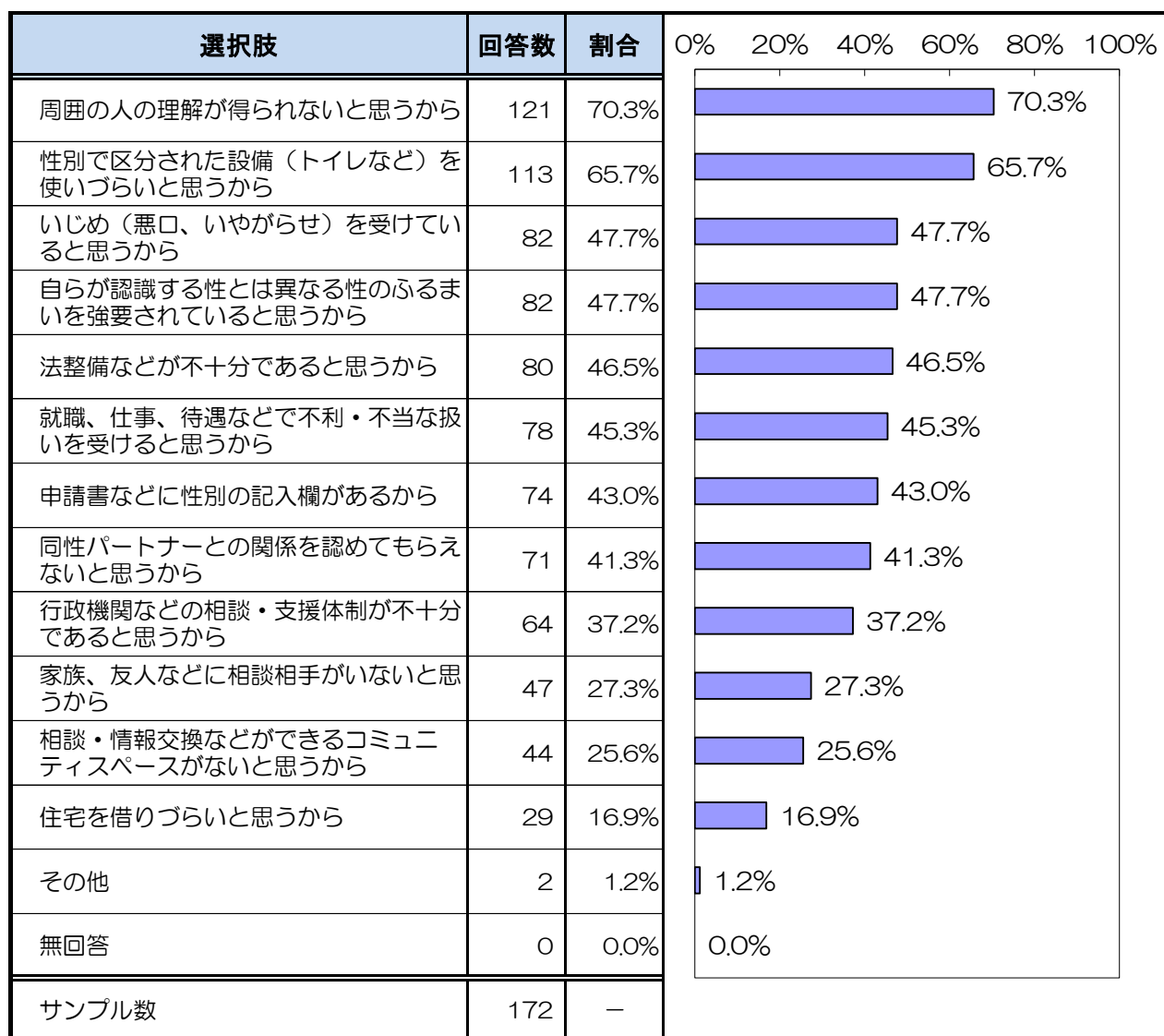
問3 現在の社会は、性的少数者の方々にとって、偏見や差別などの人権侵害のない生きやすい社会だと思いますか。(単一回答)

「どちらかと言えば思わない」が 54.7%と最も高く、次いで、「どちらかと言えば思う」の 20.8%、「思わない」の 18.2%の順となっています。



問4 問3で「3. どちらかと言えば思わない」「4. 思わない」と回答された方にお伺いします。そう思う理由は何ですか。(複数回答)

「周囲の人の理解が得られないと思うから」が70.3%と最も高く、次いで、「性別で区分された設備（トイレなど）を使いづらいと思うから」の65.7%、「いじめ（悪口、いやがらせ）を受けていると思うから」「自らが認識する性とは異なる性のふるまいを強要されていると思うから」の47.7%の順となっています。

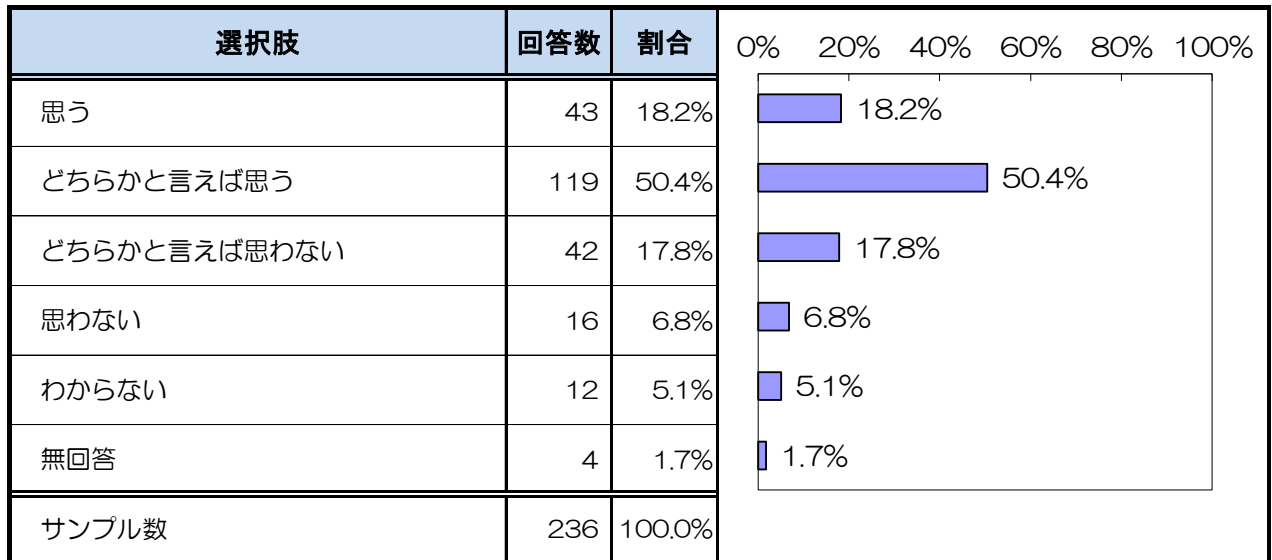


◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・自分の性に関する気持ちを素直に表現することが憚れると感じているのではないかと思うから。

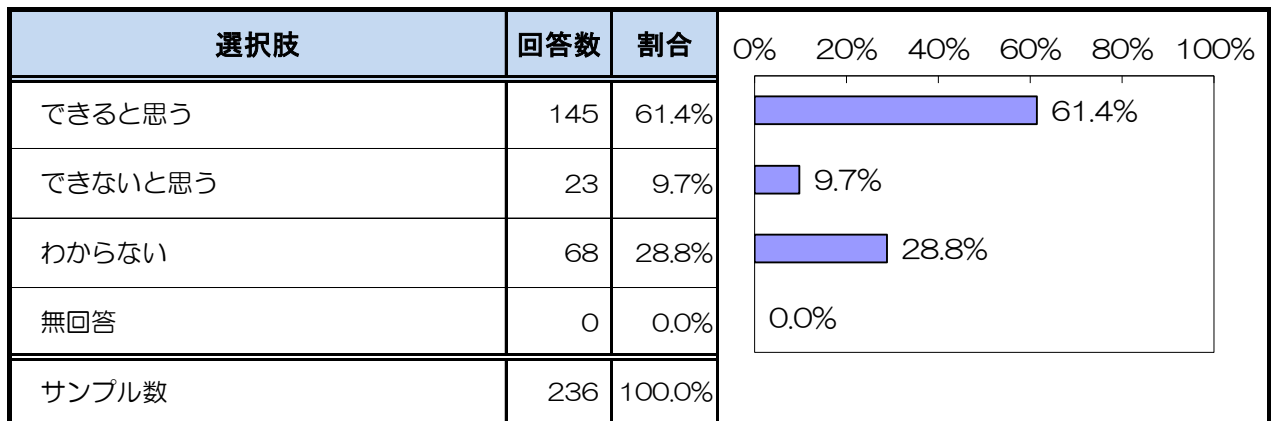
問5 L G B Tに関する社会的な意識が高まっていますか。
(単一回答)

「どちらかと言えば思う」が 50.4%と最も高く、次いで、「思う」の 18.2%、「どちらかと言えば思わない」の 17.8%の順となっています。



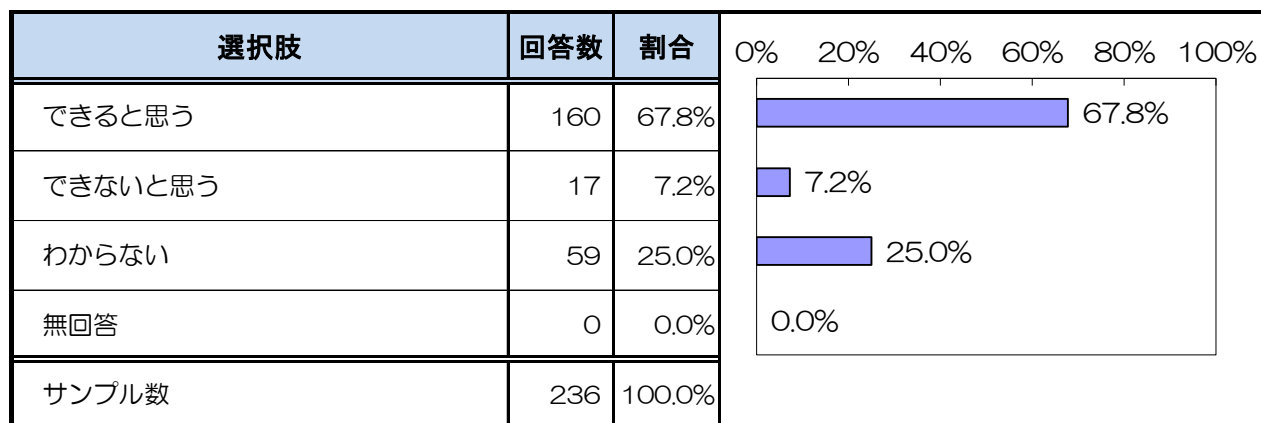
問6 家族や友人など身近な方が L G B Tなどであった場合、あなたはこれまでと変わりなく接することができますか。(単一回答)

「できると思う」が 61.4%、「できないと思う」が 9.7%、「わからない」が 28.8%となっています。



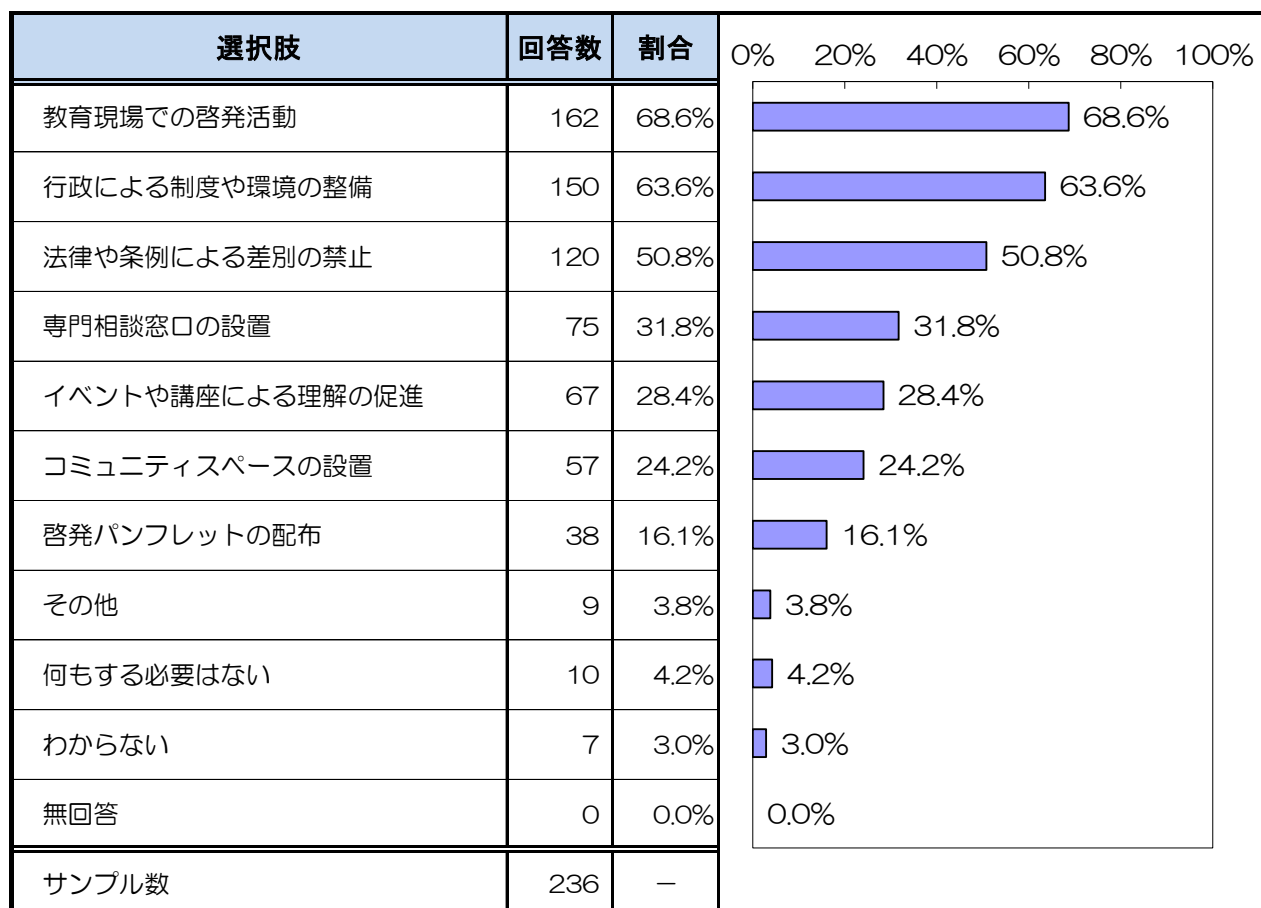
問7 学校や職場の人がLGBTなどであった場合、あなたはこれまでと変わりなく接することができますか。(単一回答)

「できると思う」が 67.8%、「できないと思う」が 7.2%、「わからない」が 25.0%となっています。



問8 LGBTなどの性的少数者の方々が生活しやすい社会になるためには、どのような取り組みが必要だと思いますか。(複数回答)

「教育現場での啓発活動」が 68.6%と最も高く、次いで、「行政による制度や環境の整備」の 63.6%、「法律や条例による差別の禁止」の 50.8%の順となっています。

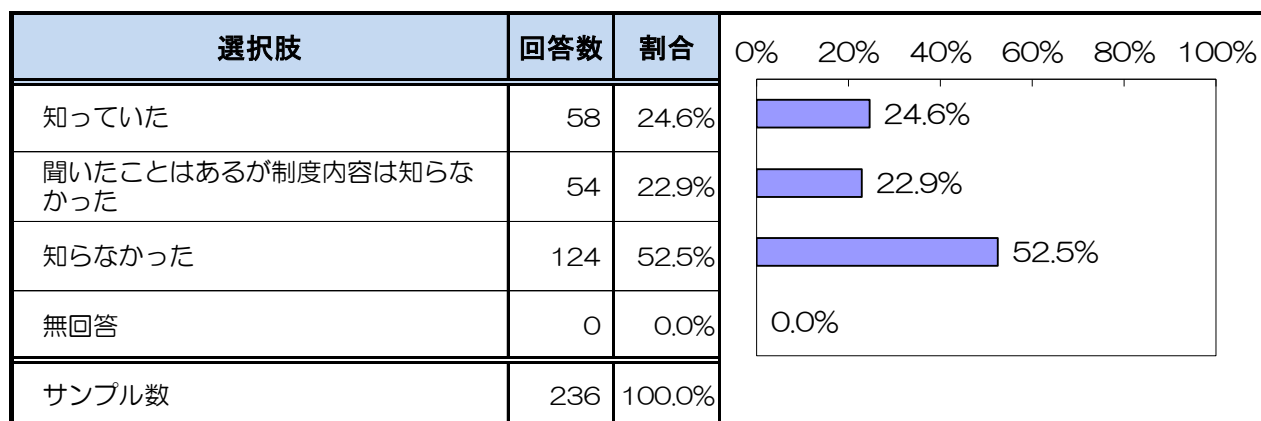


◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・ドラマとかSNSとか身近な媒体で描く事で、理解しやすくなりそうに思う。

問9 本市で性的少数者（LGBTなど）への支援策として実施予定の「鹿
見島市パートナーシップ宣誓制度」について知っていましたか。
（単一回答）

「知っていた」が24.6%、「聞いたことはあるが制度内容は知らなかった」が22.9%、「知らなかった」が52.5%となっています。



問 10 性的少数者（LGBTなど）やパートナーシップ宣誓制度について、
ご意見があればお聞かせください。

◆回答一覧（一部抜粋・原文まま）

回答内容	性別	年代	地域
多様性の世の中にLGBTの人もそうでない人も生きやすく、受け入れ易い環境が整っていくと良いと思います。対応が違うということと差別は同じではないと思うので、難しいところではあるが、多くの人が笑顔で過ごせる世の中になってほしいです。LGBTだけでなく人は違って当たり前、同じでなくて良いという教育が必要だと思います。	女	40歳代	伊敷
性的少数者の方たちへの理解が、なかなか得られていない今日ですが、鹿児島市がパートナーシップ宣誓制度を取り入れることによって、たくさんの方たちの認知度と理解が得られたらいいなと思います。	女	40歳代	中央
偏見を持っているものを今からなくすというのは、色々なことをしてもなかなか難しいと思う。これは、小さな頃からの教育で自然と当たり前のこととして受け入れられている状態にならないと、成人してから変わるというのは根本的には無理だと思う。生活様式や文化が少しずつ変わっていくのと同じように少しずつしか変わらない。この制度は、まずはやらないといけないことです。	男	40歳代	伊敷
私が子供の頃には、ほとんど公の場で語られる事さえなかった事柄。最近をよく見聞きするし、子供たちとの間でも自然と話題になるほど身近には感じている。実際、性的少数者の立場ではまだまだ生きにくい社会だと思うし、もっと私たちの理解を深めないといけないし、偏見に晒されないような仕組み作りも必要だと思う。ただ現状、身近なところにはいない（いるけど公にしていない）ので、実際のところどう対応すればいいのか、自然に振る舞えるかは、正直…よく分かりません。	女	40歳代	中央

Ⅲ 郷土芸能の保護について

1. 調査の目的

郷土芸能とは、各地域社会の祭りなどで、地元の人により演じられながら伝承されてきた、唄や踊りのことを言います。また無形民俗文化財とは、生活・信仰・行事に関する風俗慣習や民俗芸能を含む、郷土芸能よりも広い枠組みを指します。

本市では、この郷土芸能や、指定を受けた無形民俗文化財の保存会に支援を行っていますが、少子高齢化や後継者不足により、存続が危ぶまれる団体もあります。

市民の皆さんの関心度・認知度などを把握し、今後の事業推進の参考とするために、アンケートを実施しますので、ご協力をお願いいたします。

2. 調査結果を受けて担当課（文化財課）からのコメント

郷土芸能の観覧について、79.6%の方が「興味がある」と回答され、郷土芸能を保護する必要があるかどうかという設問では81.3%の方が「強くそう思う」「そう思う」と回答されるなど、郷土芸能への関心の高さがうかがえました。

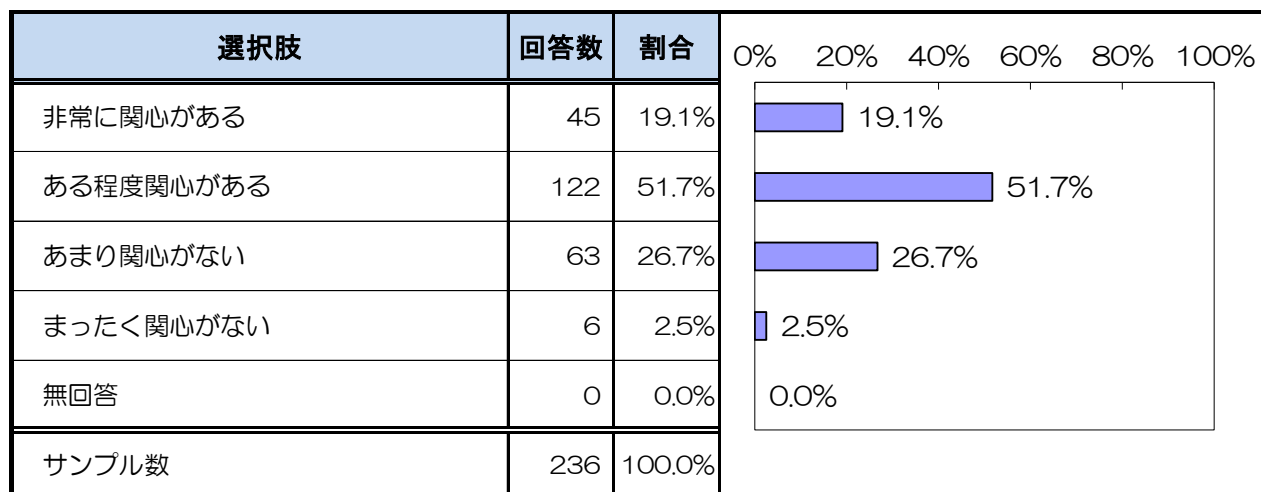
一方で郷土芸能への参加経験がある方は20.9%に留まり、参加経験がない方のうち72%の方が「観覧には興味があるが、活動には参加したくない」「観覧や活動には興味がない」と回答されました。郷土芸能の大切さは認識されつつも、活動への参加には時間的・金銭的・心理的なハードルがあり、これらのハードルを下げていく必要があることが分かりました。

本市としましては、郷土芸能団体への運営費・用具補修補助や、学校での継承活動に引き続き取り組んでまいります。今回いただいたご回答を踏まえ、周知・広報の強化についても検討してまいります。

3. 調査結果

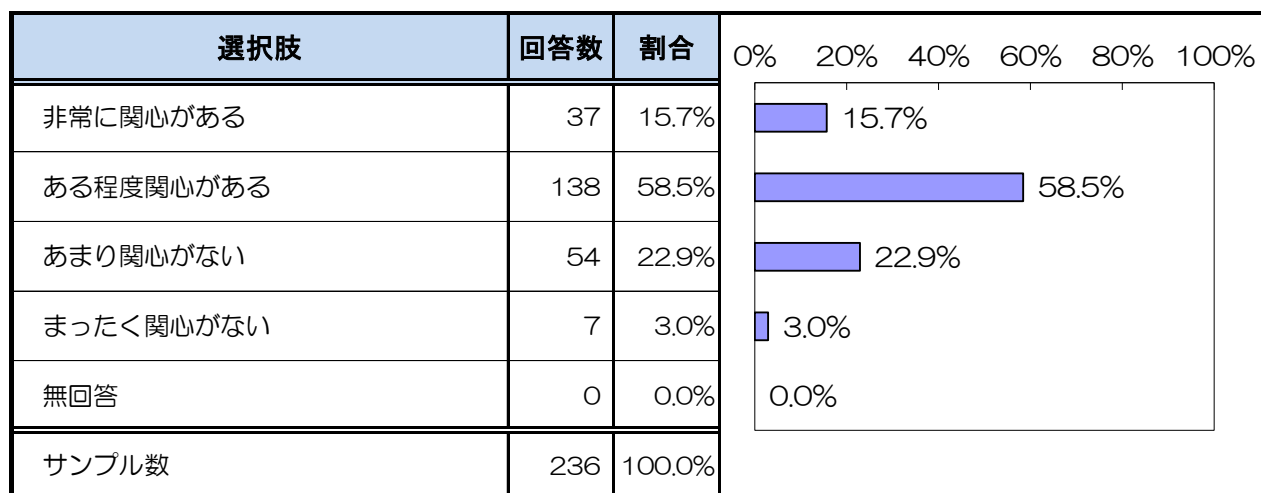
問11 地域の歴史に関心がありますか。(単一回答)

「ある程度関心がある」が 51.7%と最も高く、次いで、「あまり関心がない」の 26.7%、「非常に関心がある」の 19.1%の順となっています。



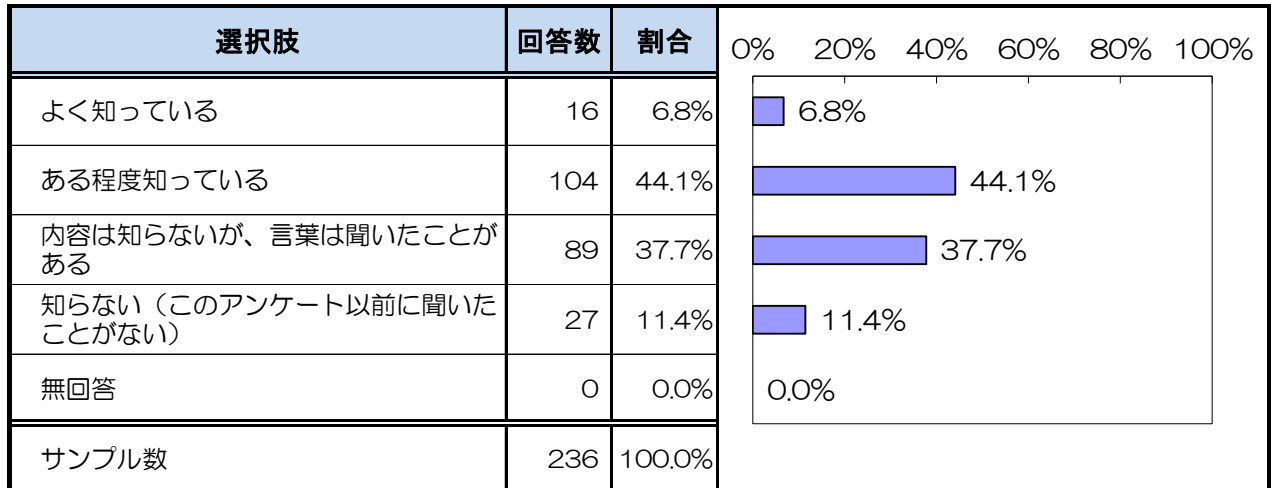
問12 地域の文化財に関心がありますか。(単一回答)

「ある程度関心がある」が 58.5%と最も高く、次いで、「あまり関心がない」の 22.9%、「非常に関心がある」の 15.7%の順となっています。



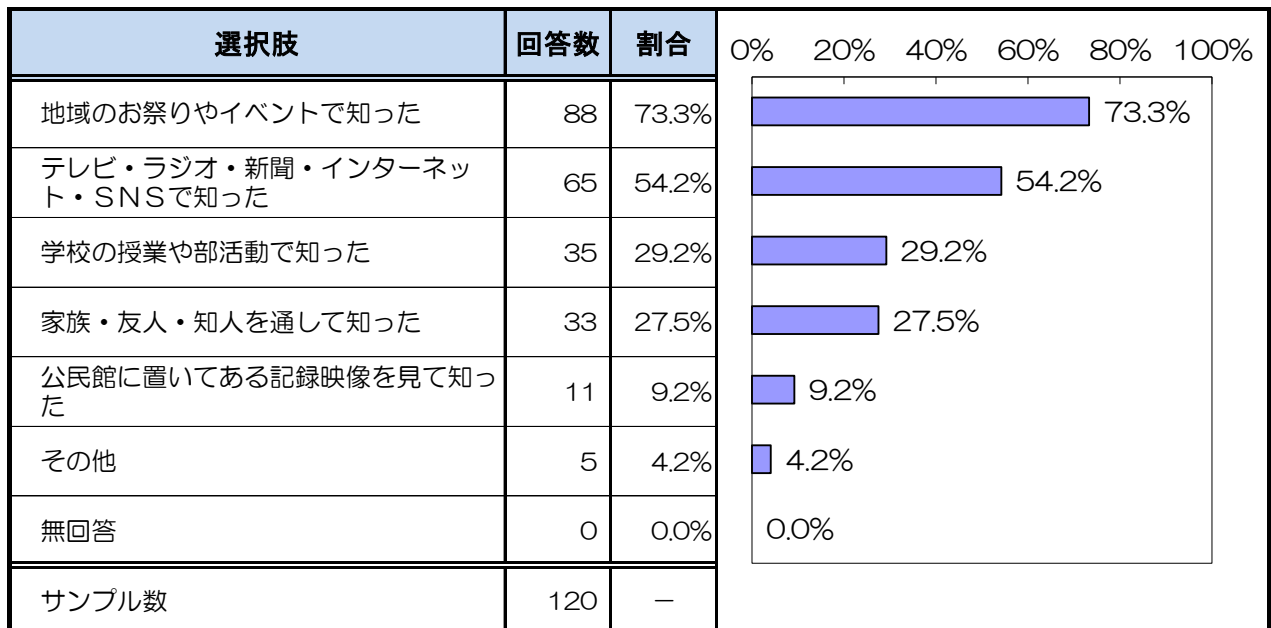
問 13 文化財のうち、無形民俗文化財には、地域の人々によって上演・伝承されてきた「郷土芸能」がありますがご存じですか。(単一回答)

「ある程度知っている」が 44.1%と最も高く、次いで、「内容は知らないが、言葉は聞いたことがある」の 37.7%、「知らない（このアンケート以前に聞いたことがない）」の 11.4%の順となっています。



問 14 問13で郷土芸能を「1. よく知っている」「2. ある程度知っている」と回答された方にお伺いします。郷土芸能の情報をどのように知りましたか。(複数回答)

「地域のお祭りやイベントで知った」が 73.3%と最も高く、次いで、「テレビ・ラジオ・新聞・インターネット・SNSで知った」の 54.2%、「学校の授業や部活動で知った」の 29.2%の順となっています。

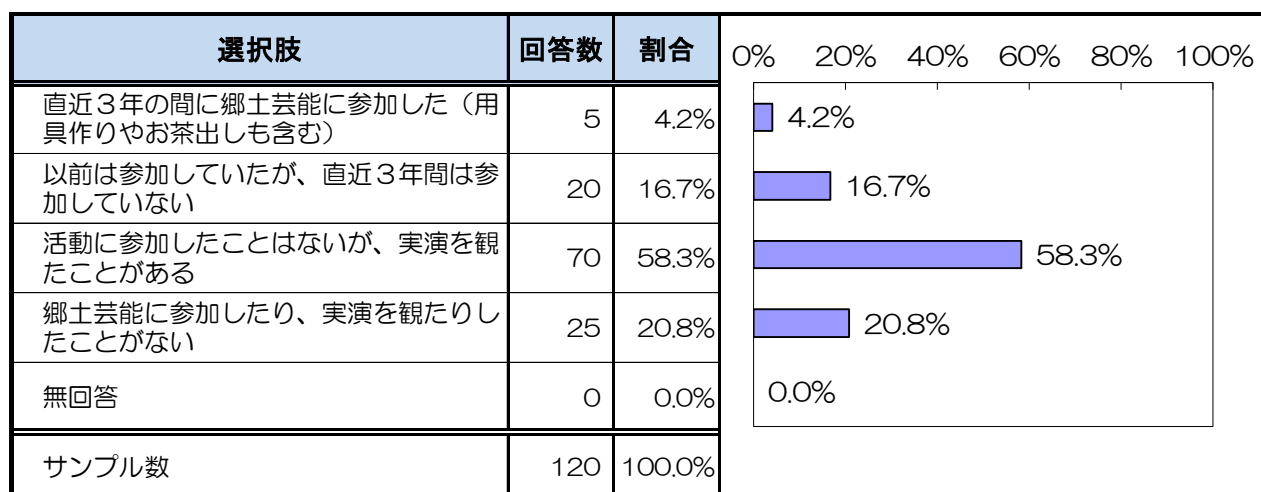


◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・鹿児島市の黎明館のほか、日置市や出水市、薩摩川内市といった市の民俗資料館の中に、パネルで展示していました。

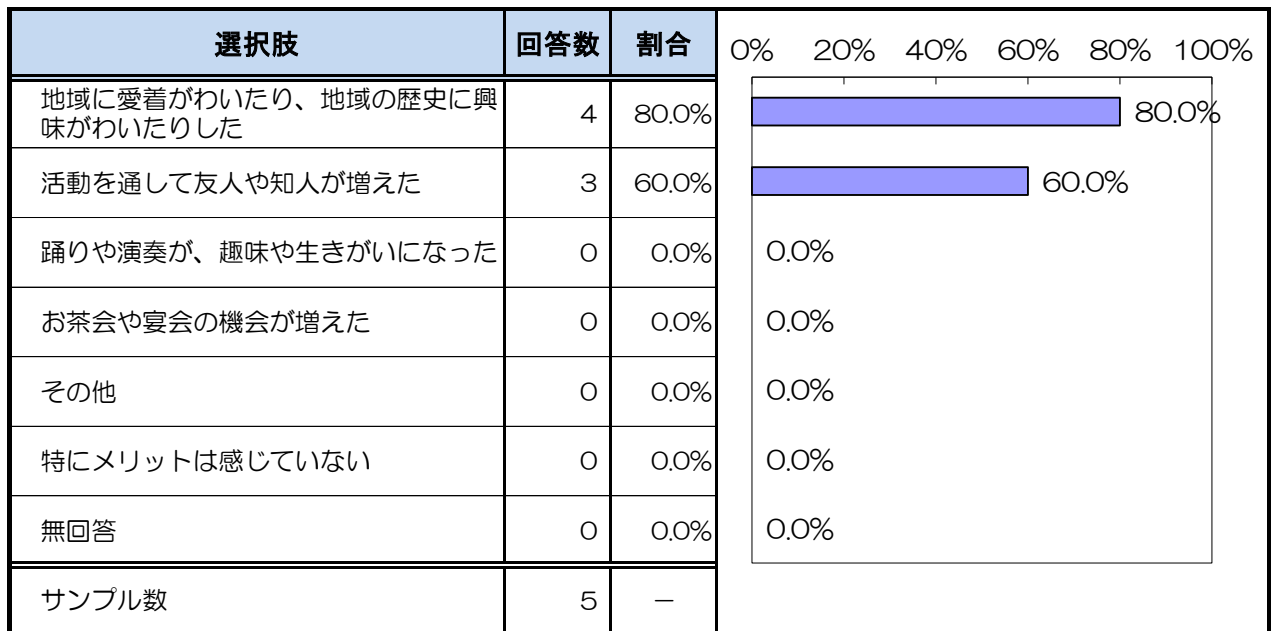
問 15 問 1 3 で郷土芸能を「1. よく知っている」「2. ある程度知っている」と回答された方にお伺いします。郷土芸能に参加したり、実演を観たりしたことがありますか。（単一回答）

「活動に参加したことはないが、実演を観たことがある」が 58.3% と最も高く、次いで、「郷土芸能に参加したり、実演を観たりしたことがない」の 20.8%、「以前は参加していたが、直近 3 年間は参加していない」の 16.7% の順となっています。



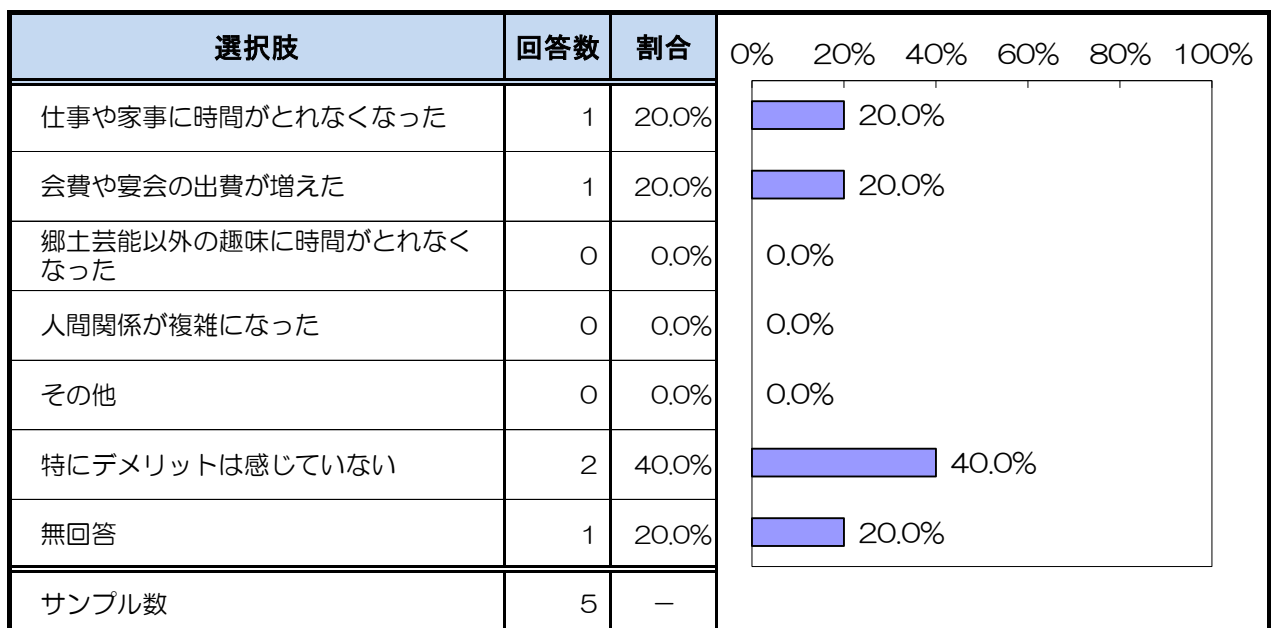
問 16 問15で「1. 直近3年の間に郷土芸能に参加した」と回答された方にお伺いします。活動に参加することで、どのようなメリットがありましたか。(複数回答)

「地域に愛着がわいたり、地域の歴史に興味がありました」が80.0%、「活動を通して友人や知人が増えた」の60.0%となっています。



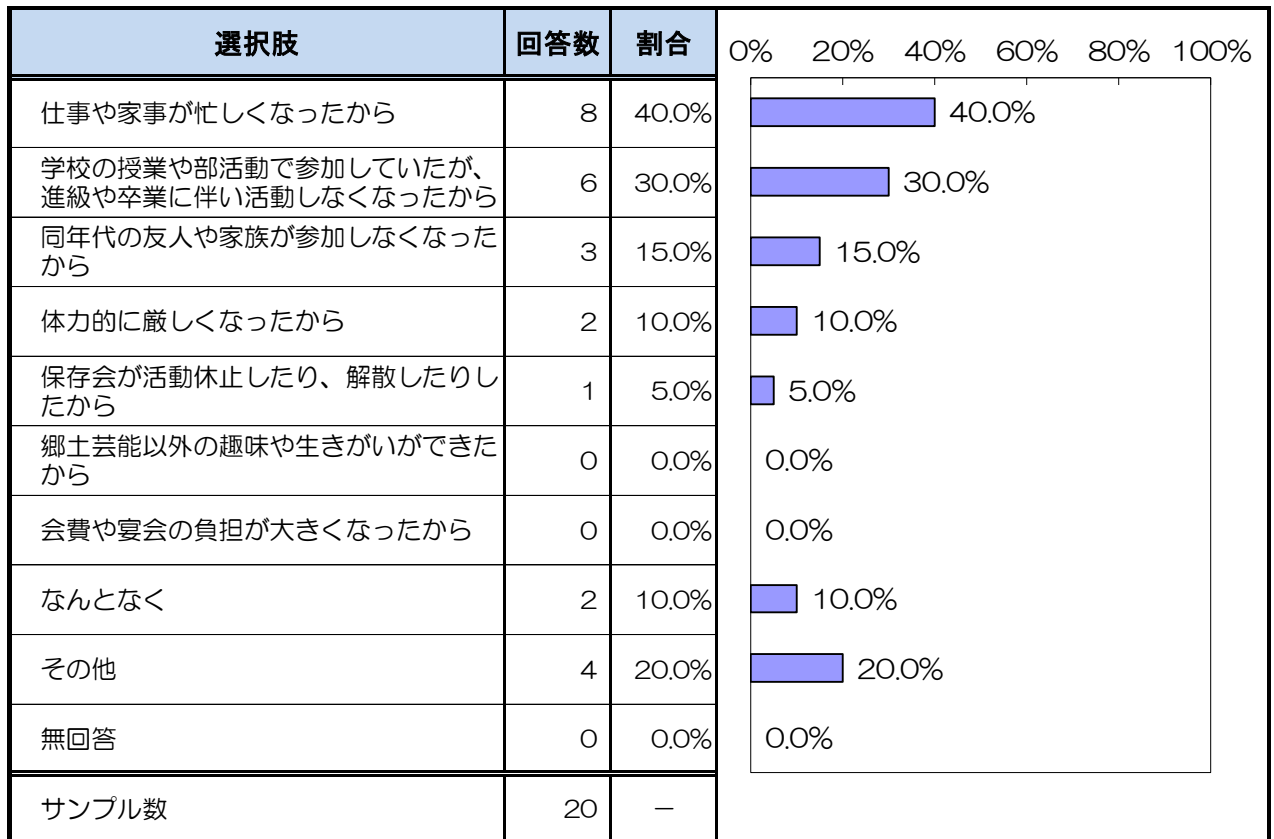
問 17 問15で「1. 直近3年の間に郷土芸能に参加した」と回答された方にお伺いします。活動に参加することで、どのようなデメリットがありましたか。(複数回答)

「仕事や家事に時間がとれなくなった」「会費や宴会の出費が増えた」が20.0%となっています。



問 18 問 15 で「2. 以前は郷土芸能に参加していたが、直近 3 年間は参加していない」と回答された方にお伺いします。活動をしなくなった理由をお選び下さい。(複数回答)

「仕事や家事が忙しくなったから」が 40.0%と最も高く、次いで、「学校の授業や部活動で参加していたが、進級や卒業に伴い活動しなくなったから」の 30.0%、「同年代の友人や家族が参加しなくなったから」の 15.0%の順となっています。

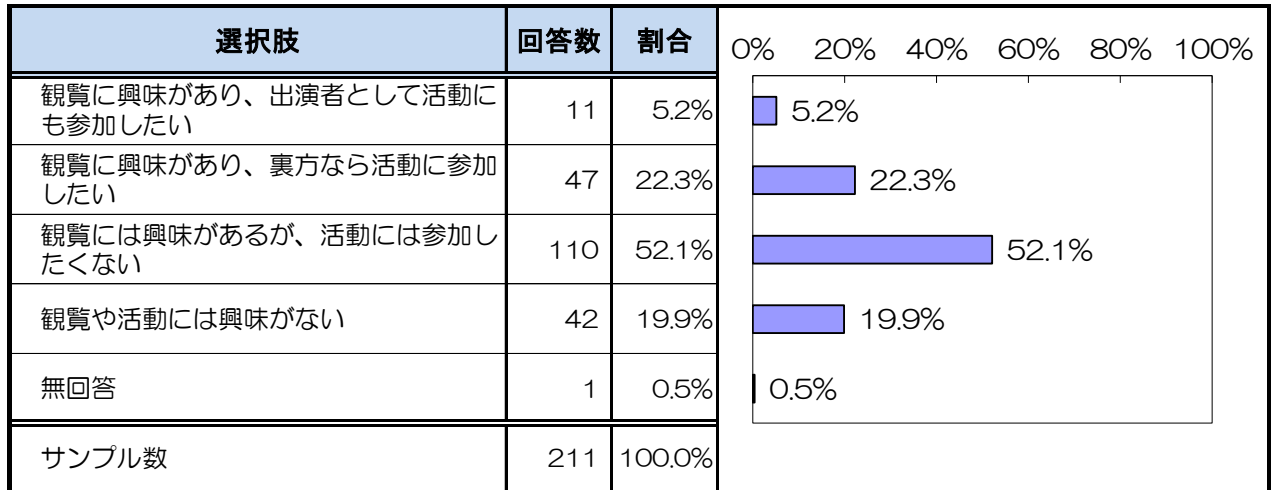


◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・引っ越しに伴い。

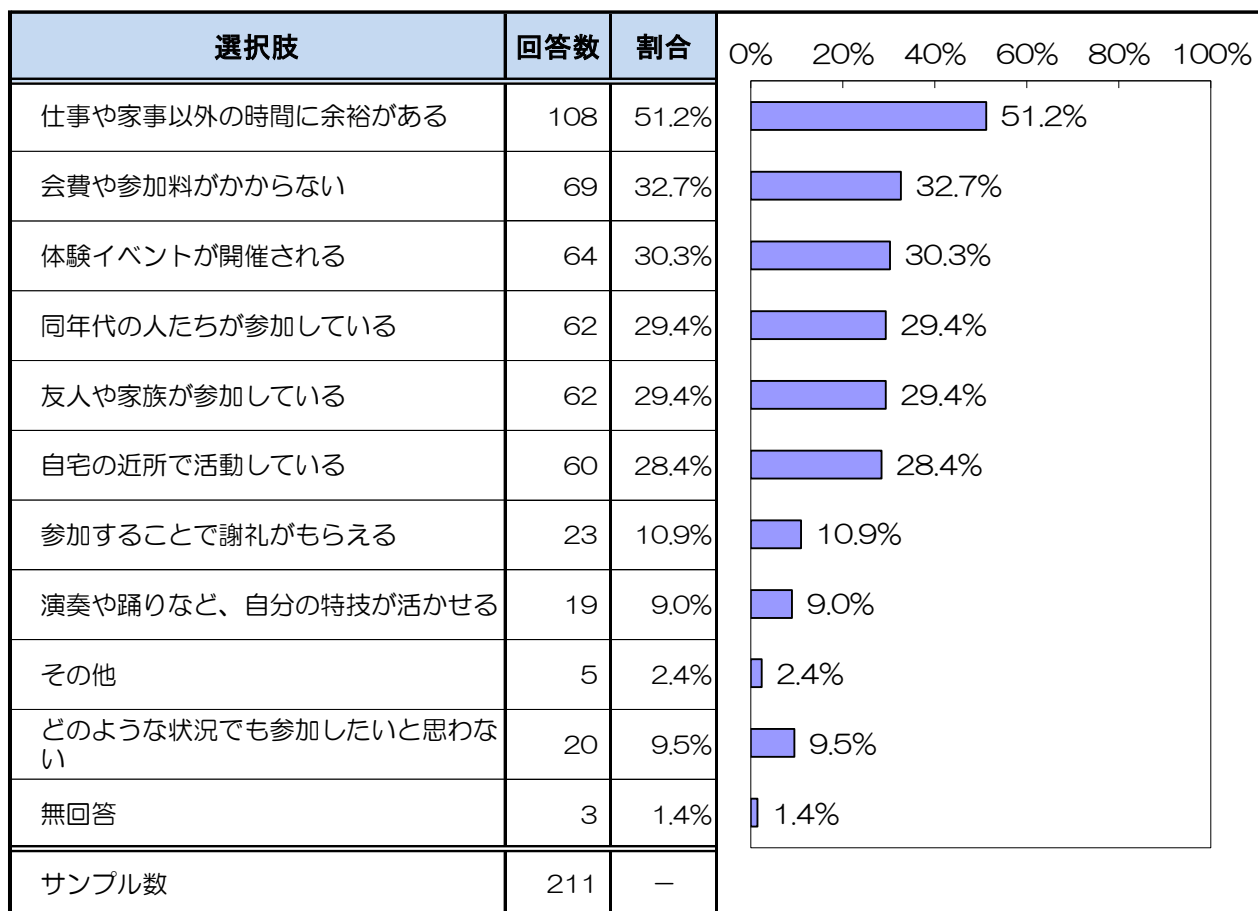
問 19 郷土芸能活動に参加したことがない方（問13の選択肢3、4、問15の選択肢3、4のいずれかに回答された方）にお伺いします。郷土芸能の観覧や、活動に興味がありますか。（単一回答）

「観覧には興味があるが、活動には参加したくない」が52.1%と最も高く、次いで、「観覧に興味があり、裏方なら活動に参加したい」の22.3%、「観覧や活動には興味がない」の19.9%の順となっています。



問 20 どのような状況なら活動に参加してみたいと思いますか。(複数回答)

「仕事や家事以外の時間に余裕がある」が 51.2%と最も高く、次いで、「会費や参加料がかからない」の 32.7%、「体験イベントが開催される」の 30.3%の順となっています。



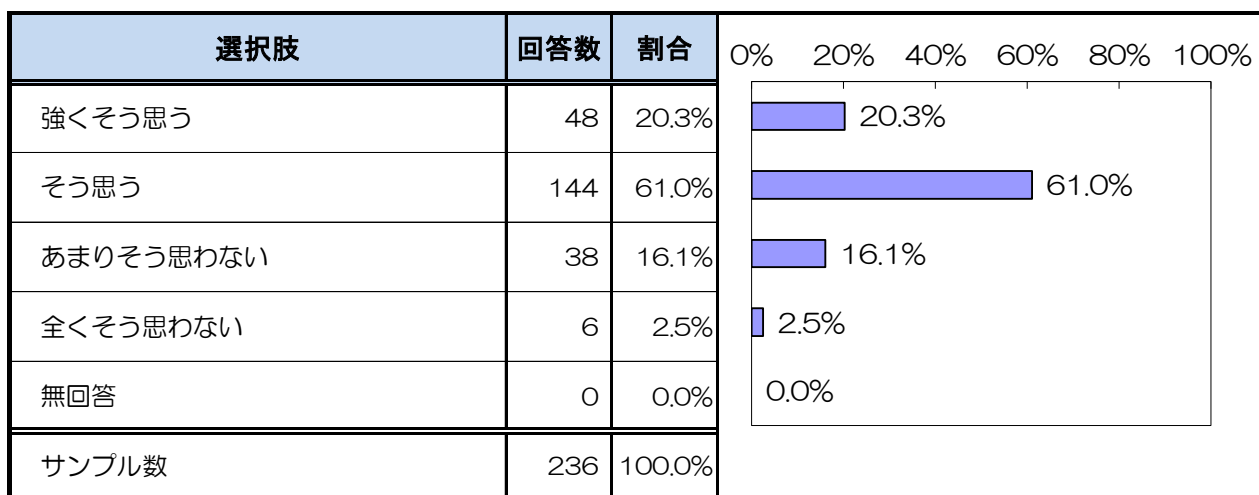
◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・高齢のため、活動には参加したくない。

問 21 現在、少子高齢化や後継者不足によって、存続が危ぶまれる郷土芸能もありますが、郷土芸能を守り続ける必要があると思いますか。

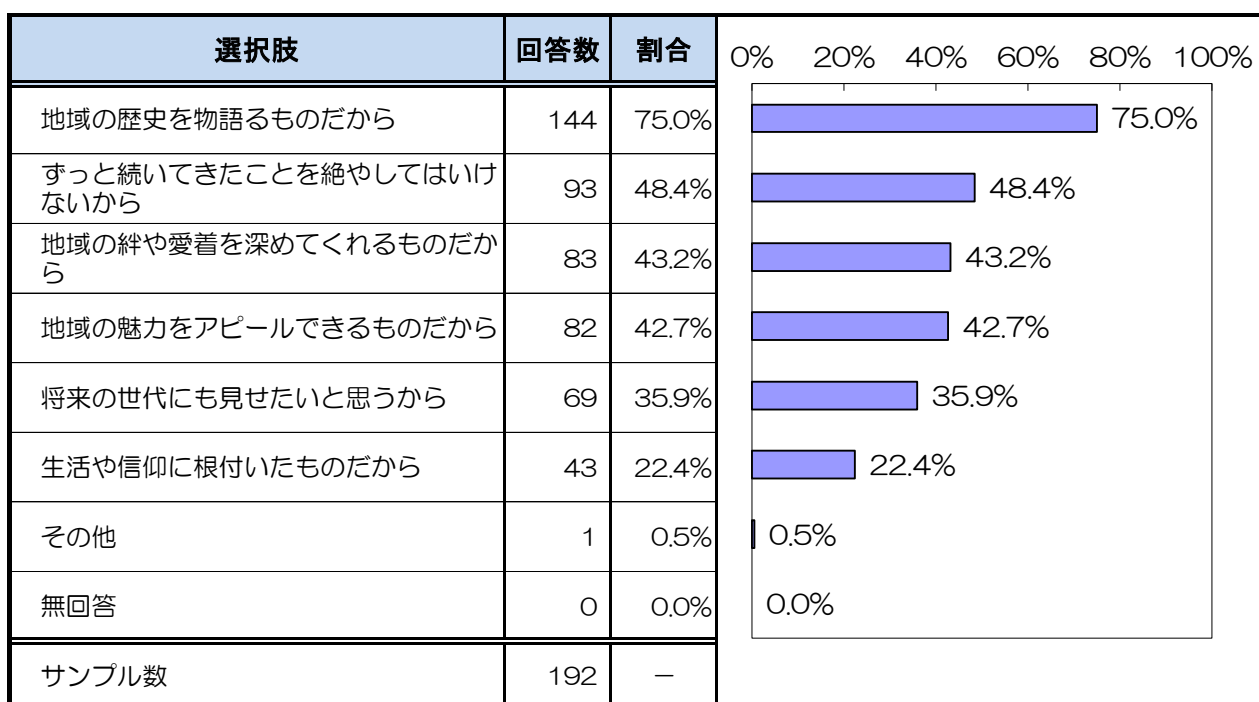
(単一回答)

「そう思う」が 61.0%と最も高く、次いで、「強くそう思う」の 20.3%、「あまりそう思わない」の 16.1%の順となっています。



問 22 問 21 で「1. 強くそう思う」「2. そう思う」と回答された方にお伺いします。そう思う理由はなぜですか。(複数回答)

「地域の歴史を物語るものだから」が 75.0%と最も高く、次いで、「ずっと続いてきたことを絶やしてはいけないから」の 48.4%、「地域の絆や愛着を深めてくれるものだから」の 43.2%の順となっています。

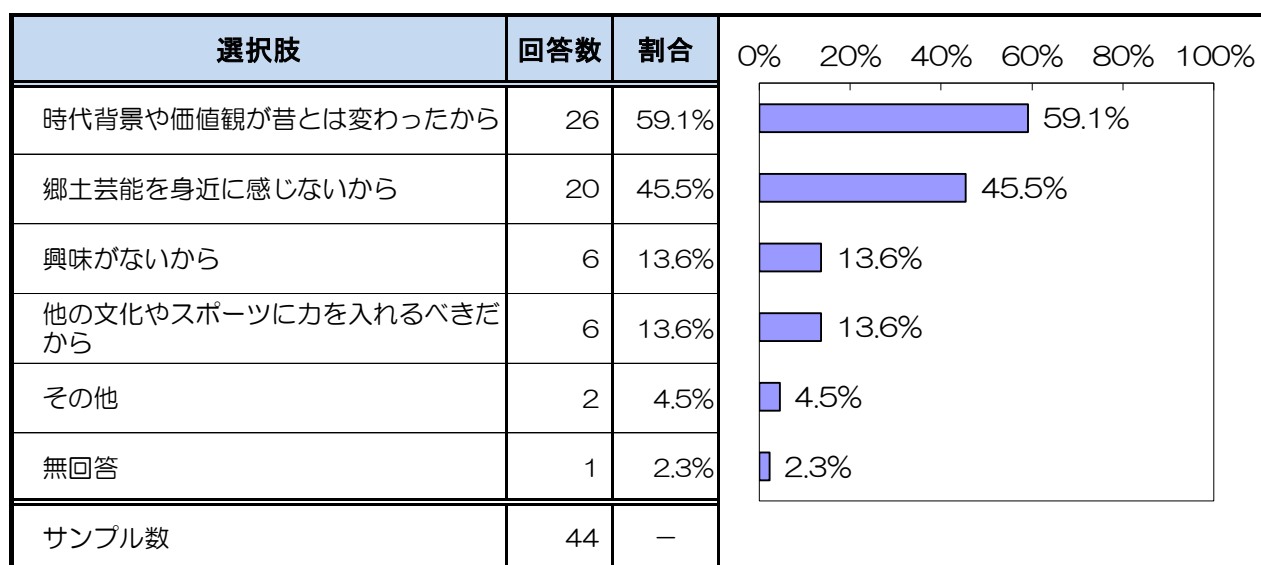


◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

・絶えかけた事も、歴史のひとつ。

問 23 問 2 1 で「3. あまりそう思わない」「4. 全くそう思わない」と回答された方にお伺いします。そう思う理由はなぜですか。（複数回答）

「時代背景や価値観が昔とは変わったから」が 59.1%と最も高く、次いで、「郷土芸能を身近に感じないから」の 45.5%、「興味がないから」「他の文化やスポーツに力を入れるべきだから」の 13.6%の順となっています。

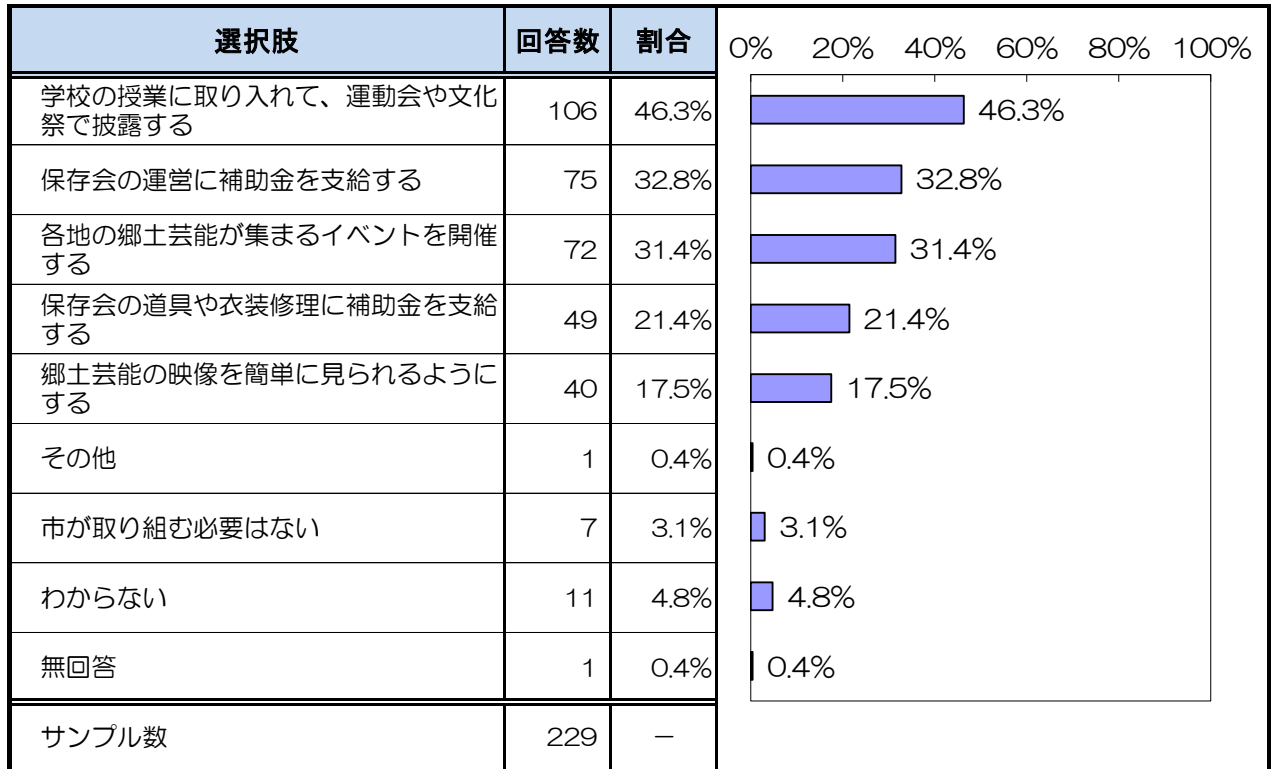


◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

・その地域で必要な文化なのであれば、継承されていくと思うが存続の危機にあるものについては現地住民にとって本質的に継承することが必要だと感じていない方が多数なのではないか。詳しく状況はわかりませんが。ただ、言葉や文化は永遠ではないし形を変えて存続するものもあれば消えるものもある。そういった流れがあるなかで文化が存在するのであって、市町村ができることは映像や音声、書籍での記録を怠らないことだと考えます。

問 24 郷土芸能の保護に市が取り組むうえで、どのような取組が特に効果的だと思いますか。(2つまで)

「学校の授業に取り入れて、運動会や文化祭で披露する」が46.3%と最も高く、次いで、「保存会の運営に補助金を支給する」の32.8%、「各地の郷土芸能が集まるイベントを開催する」の31.4%の順となっています。



◆その他の回答（一部抜粋・原文まま）

- ・その地域にあった文化や伝統を学べるような行事の開催を定期的に行う。

問 25 郷土芸能について、どのようなことでも構いませんので、自由にご記入ください。(実際に参加・観覧した時の感想や、保存活動に関して提案など)

◆回答一覧 (一部抜粋・原文まま)

回答内容	性別	年代	地域
PR不足だと思います。郷土芸能カレンダーを作ってみてはどうでしょうか？	男	60歳代	中央
まずは知る為の機会を増やしてほしい。	男	50歳代	谷山
郷土芸能自体に触れる機会が少ないのでSNSでの普及をしてみるなど、若い世代の目に届くところでの活動がいいのではないかと思います。	女	29歳以下	中央
子どもたちが親しみやすい活動だとよい。	女	30歳代	中央
小学校では多くの学校で取り上げられているが、特に高校の体育祭などで積極的に取り上げて貰えないかと思います。	男	60歳代	中央
強制的な行事にしてあるから、子供は嫌がります。	男	50歳代	喜入
郷土芸能を守ることは大切だが、他者や家族の協力を強要するものではない。特に、男だけでイベントを楽しみ、打ち上げを女に押し付けるといったイメージがあるので、そこは意識の問題だが改善する必要があると思う。	男	30歳代	松元
実際に参加する機会がなかったの、家族で何かイベントなど参加できるものがあるといい。	女	30歳代	谷山
保存活動に参加するための手段が分からない。	女	60歳代	谷山
コロナもあって見る機会にとぼしくなった。	女	30歳代	吉野
霧島？の太鼓を見た。イオンモールとか、身近なところで見れると親しみやすいです。	女	50歳代	中央
私は中学生の文化祭で、郷土芸能を観覧しました。同級生が衣装を着て、堂々と踊っていて、すごく印象的でもう数十年前の事ですが、いまだに覚えています。その時は、地域に郷土芸能があり、かかわれる事が少しうらやましかったです。	女	30歳代	谷山
田舎の運動会で毎年披露されていたものを見たことがあるが子供たちが一生懸命に大人から教えてもらったものを披露している姿は感銘を受けた。これを絶やさない方法があればいいが少子高齢化にともない、私が見ていた頃の物と今とではまったく違うものだろう。	女	29歳以下	谷山
郷土芸能とか民俗文化財などというものは、幾多の時代の中で、人々に愛されて、伝承されてきたものだと思いますので、廃れていくものはやむを得ないのではないかと思います。そういったものに、限られた税金を投入して、無理に残さなければならないとは思いません。	男	60歳代	吉野
全部を残していくのは難しいと思いますが、地域の歴史として残していく大切さもあると思います。個人や一部の方達の努力では難しいと思うので、公的な応援、援助は必要と思います。	女	50歳代	中央
文化や伝統を継承することは大切ではあると思う。時代の流れにそぐわないため消失していくこともあると思うので、記録に残していくことが重要であると思う。	男	29歳以下	中央
郷土芸能と繋がりを持ったことがないので、具体的にどうしていったらいいのか見当が付きません。ただ、伝え続けてきたものが消えると、その土地の特色が消えて、均一化してしまうので、残していけたらいいと思います。	女	50歳代	松元
芸能という性質からある種の娯楽と理解します。楽しみが共有されなければどれもこれもと伝えていく価値はないのではないのでしょうか。	男	40歳代	中央
私が住んでいる瀬々串では、棒踊りがあります。地域の保存会の方々が子供達に教え、文化祭などで披露しています。おじいちゃん、父親、子供とずっと受け継がれる棒踊りが無くなってしまふのは寂しいなと思います。	女	40歳代	喜入

IV 子どもの未来応援条例（仮称）の制定について

1. 調査の目的

本市では、子どもを社会全体で守り育てるという気運を醸成し、全ての子どもが生まれ育った環境に左右されることなく、現在から将来の生活にわたり夢や希望を持てる社会の実現を目指すため、令和3年度から「鹿児島市子どもの未来応援条例（仮称）」の制定に取り組んでいます。

この条例は今後の本市の子ども施策の方向性について規定するものであり、この調査は子育てや子どもの権利等に関して、市民の皆様の現状認識を把握し、条例制定の基礎資料とするために実施するものです。

つきましては、お忙しいところ大変恐縮ですが、本アンケート調査の趣旨をご理解の上、ご協力をお願いいたします。

2. 調査結果を受けて担当課（こども福祉課）からのコメント

子どもの未来応援条例（仮称）の制定に向けて、子どもの権利等に関する市民の皆様の現状認識を把握するために、今回のアンケートを実施したところ、多くのご回答やご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。

子ども（児童）の権利に関する条約について、39.0%の方が「聞いたことはあるが内容は知らない」、34.7%の方が「知らない」と回答され、子どもの権利について、まだまだ多くの方が知らない現状であることが分かりました。

また、子どもの権利に対するイメージについて、多くの方が子どもが人間らしく生き、健やかに成長するために必要なものと考えている一方で、大人にとって面倒なもの「そう思う」4.7%、「どちらかといえばそう思う」8.1%、子どもに権利は必要ない「そう思う」3.0%、「どちらかといえばそう思う」2.1%との回答があるように、市民の皆様に、なぜ今子どもの権利を尊重する必要があるのか、より分かりやすく伝えていく必要があることも分かりました。

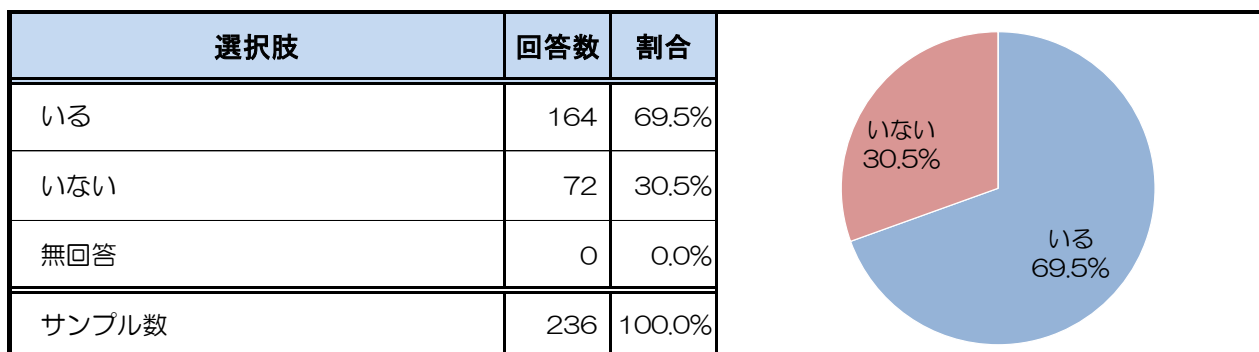
さらに、子どもの参加する権利について、家庭や学校行事・イベントに関しては、現在も子どもが参加する機会があるようですが、部活動等や学校の決まり、地域の行事やまちづくり、鹿児島市政について、子どもたちが参加する機会が、現状ではあまり無く、今後必要との意見が最も多くなっていたことから、学校や地域・行政において、これまで以上に、子どもたちの参加の機会が求められていることも分かりました。

今回の調査結果及びいただいた貴重なご意見を踏まえ、子どもたちを取り巻く現状と、子どもの権利尊重を基盤とした子どもにやさしいまちづくりについて、より一層、子どもにも大人にも広報が必要であると考えるところです。引き続き、子どもの未来応援条例（仮称）の制定に向けて、また、子どもにやさしいまちづくりを目指して取組を進めてまいります。

3. 調査結果

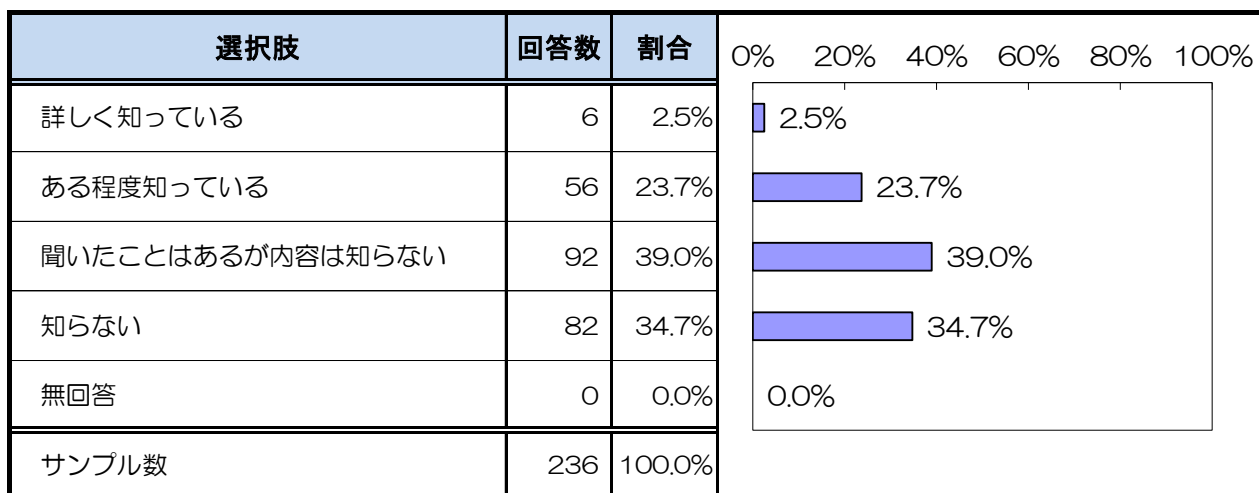
問 26 あなたには、子どもがいますか。(単一回答)

「いる」が69.5%、「いない」が30.5%となっています。



問 27 あなたは、「子ども（児童）の権利に関する条約」（1989年に国際連合で採択、日本は1994年に批准）を知っていますか。(単一回答)

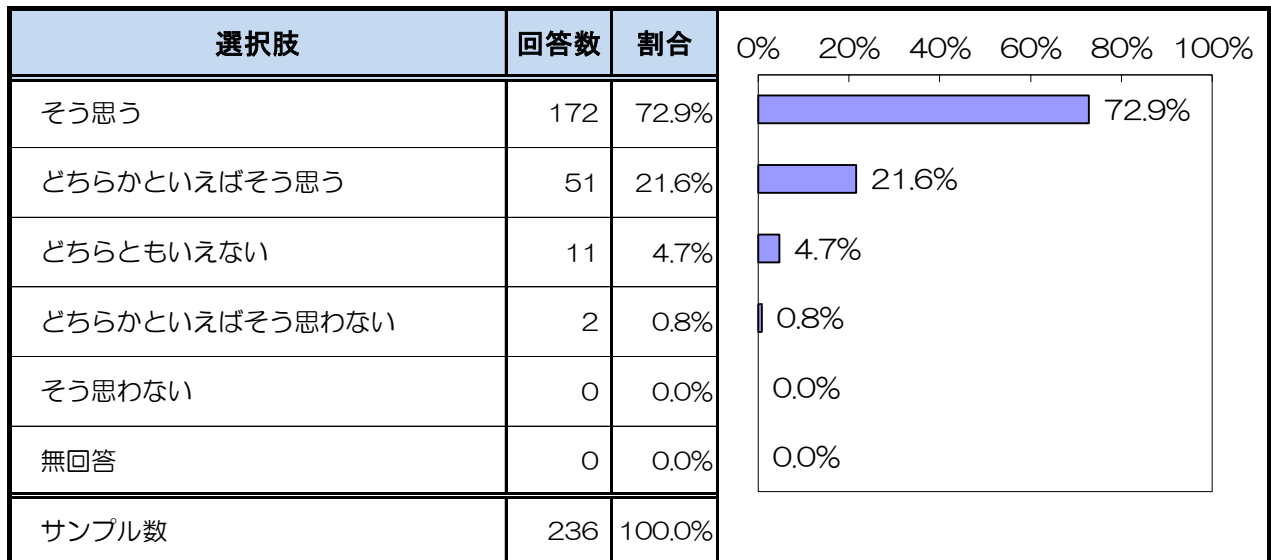
「聞いたことはあるが内容は知らない」が39.0%と最も高く、次いで、「知らない」の34.7%、「ある程度知っている」の23.7%の順となっています。



問 28 あなたは、子どもの権利についてどのようなイメージをお持ちですか。
(単一回答)

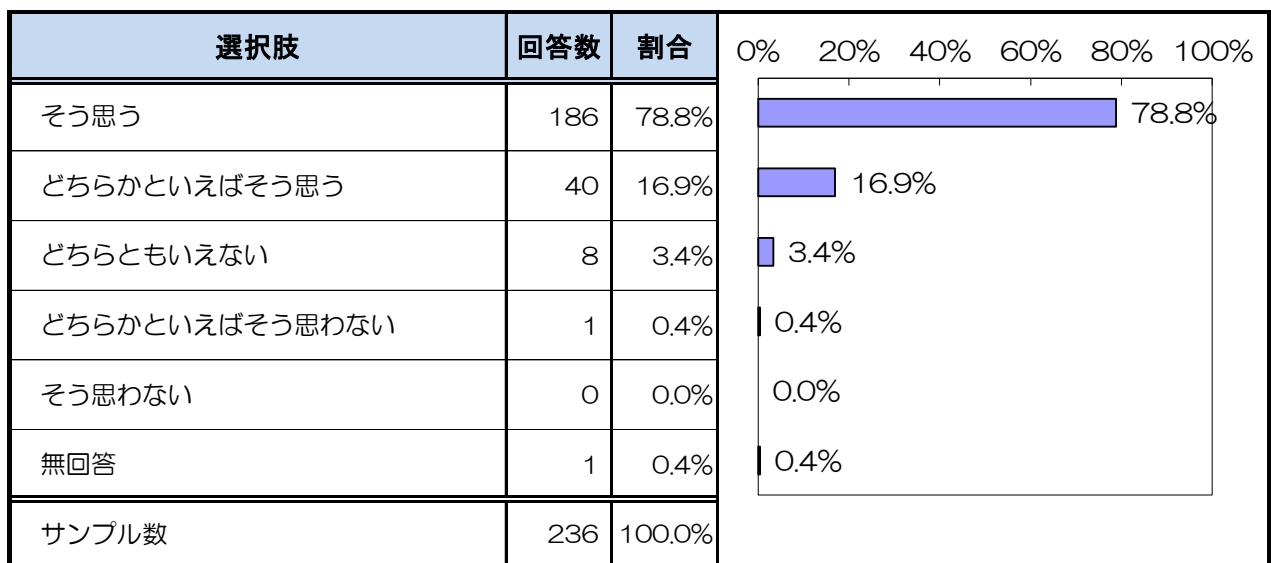
① 子どもが人間らしく生きるのに必要なもの

「そう思う」が 72.9%と最も高く、次いで、「どちらかといえばそう思う」の 21.6%、「どちらともいえない」の 4.7%の順となっています。



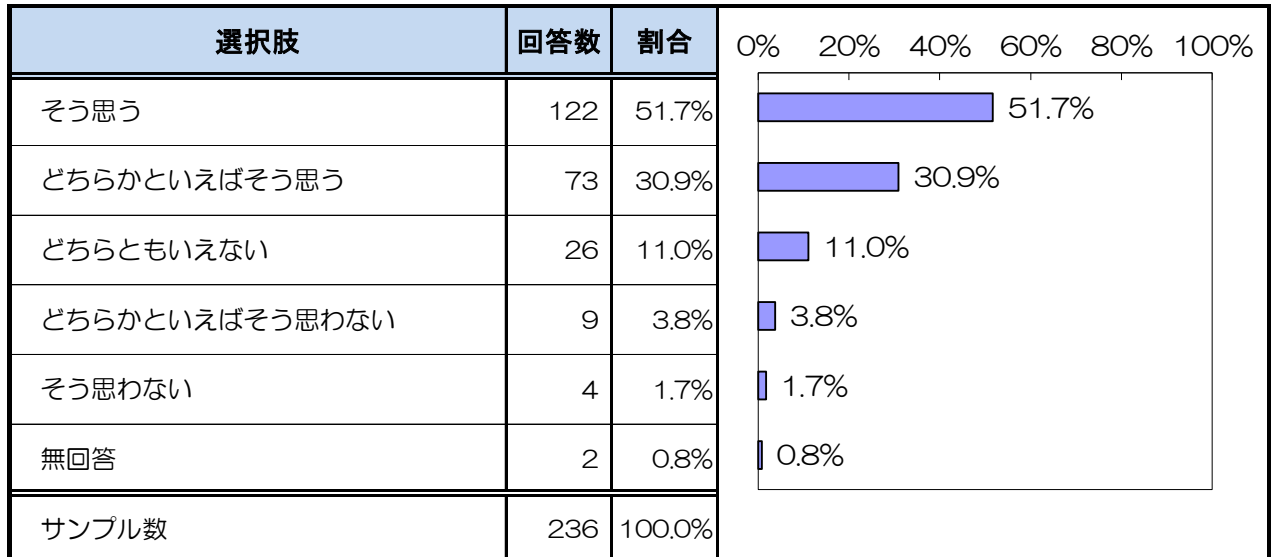
② 子どもが健やかに成長するために保障されるべきもの

「そう思う」が 78.8%と最も高く、次いで、「どちらかといえばそう思う」の 16.9%、「どちらともいえない」の 3.4%の順となっています。



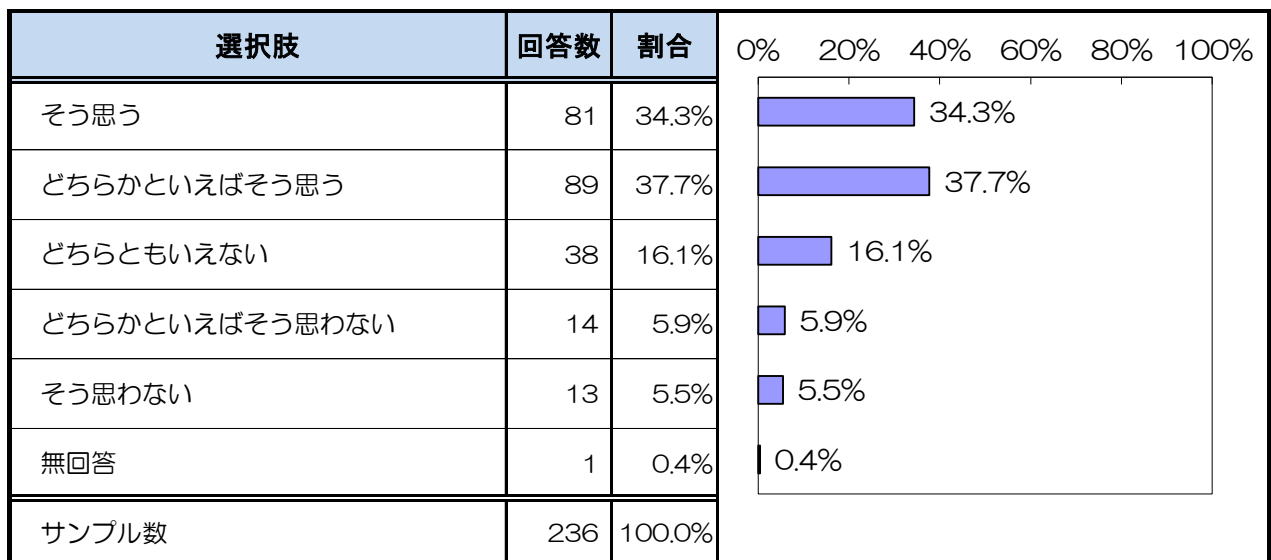
③ 大人と同じように当然認められるべきもの

「そう思う」が 51.7%と最も高く、次いで、「どちらかといえばそう思う」の 30.9%、「どちらともいえない」の 11.0%の順となっています。



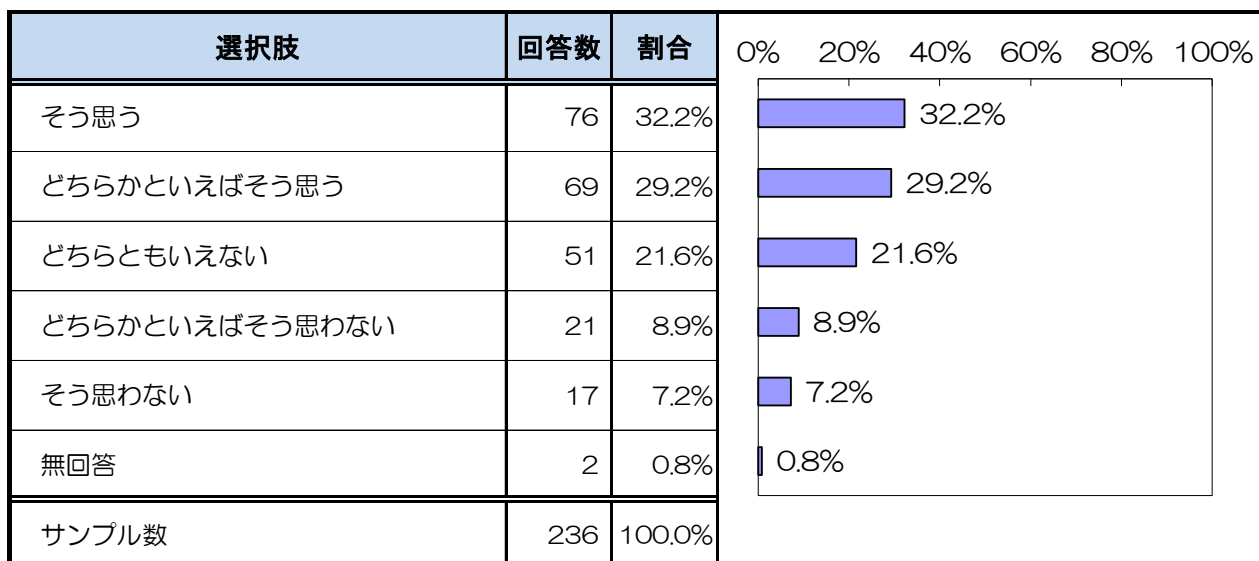
④ 大人と比べてある程度の制限は仕方ない

「どちらかといえばそう思う」が 37.7%と最も高く、次いで、「そう思う」の 34.3%、「どちらともいえない」の 16.1%の順となっています。



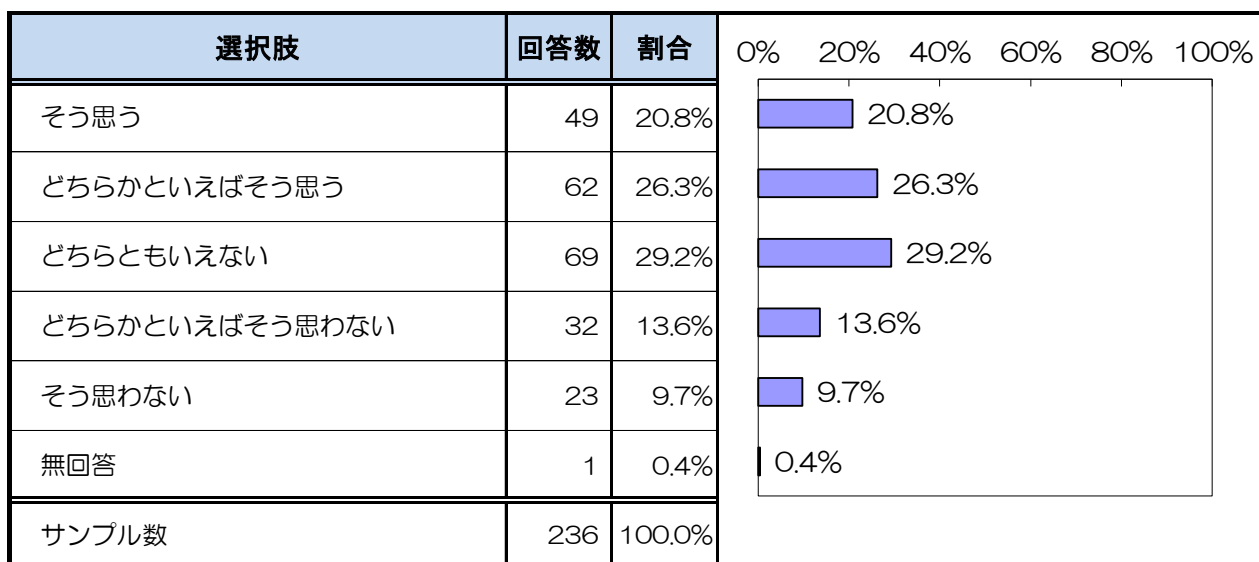
⑤ 権利は義務や責任を果たしてこそ認められるもの

「そう思う」が 32.2%と最も高く、次いで、「どちらかといえばそう思う」の 29.2%、「どちらともいえない」の 21.6%の順となっています。



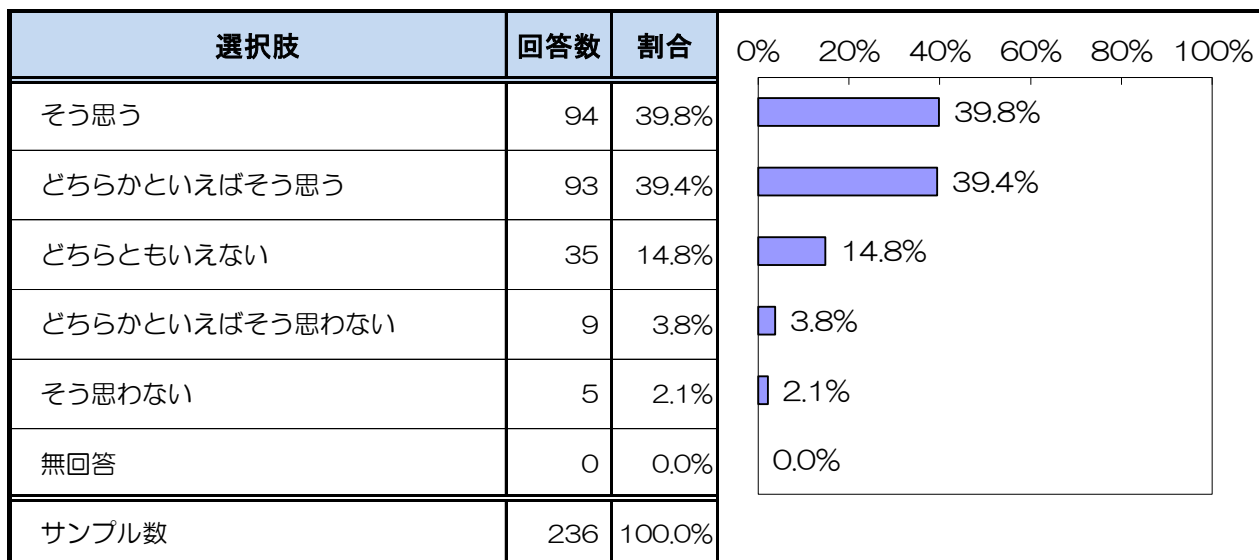
⑥ 権利ばかり尊重すると、子どもがわがままになる

「どちらともいえない」が 29.2%と最も高く、次いで、「どちらかといえばそう思う」の 26.3%、「そう思う」の 20.8%の順となっています。



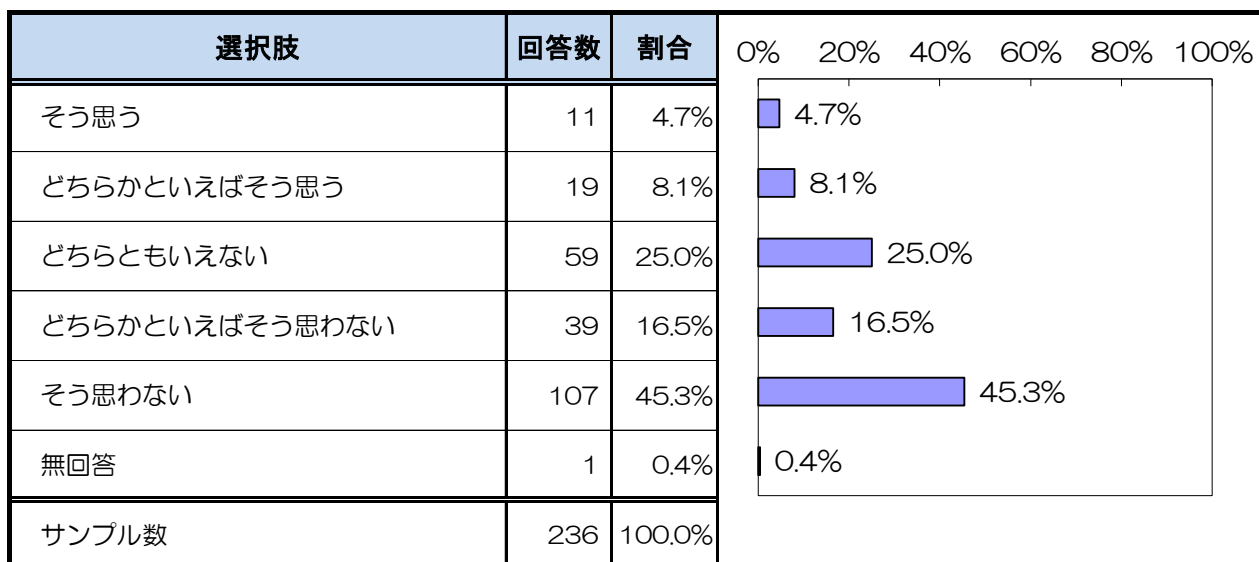
⑦ 自分の権利を大切にされることで、子どもは他人の権利も尊重できるようになる

「そう思う」が 39.8%と最も高く、次いで、「どちらかといえばそう思う」の 39.4%、「どちらともいえない」の 14.8%の順となっています。



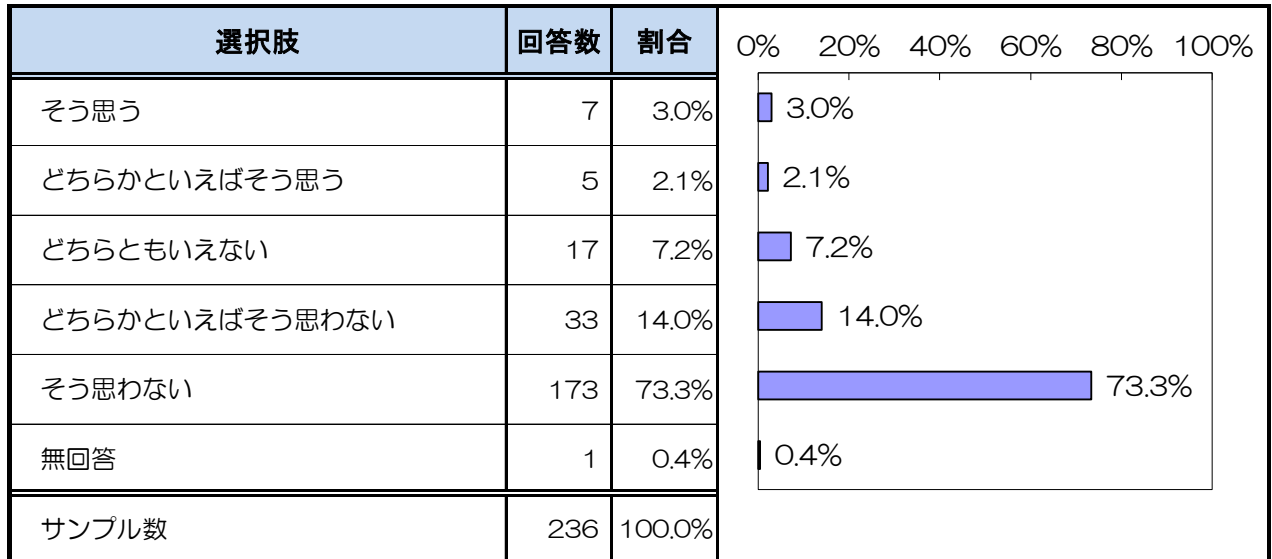
⑧ 大人にとって面倒なもの

「そう思わない」が 45.3%と最も高く、次いで、「どちらともいえない」の 25.0%、「どちらかといえばそう思わない」の 16.5%の順となっています。



⑨ 子どもに権利は必要ない

「そう思わない」が73.3%と最も高く、次いで、「どちらかといえばそう思わない」の14.0%、「どちらともいえない」の7.2%の順となっています。



問 29 子ども（児童）の権利条約は以下のような子どもの権利を保障しています。あなたが大切だと思う子どもの権利を全て選んでください。

（複数回答）

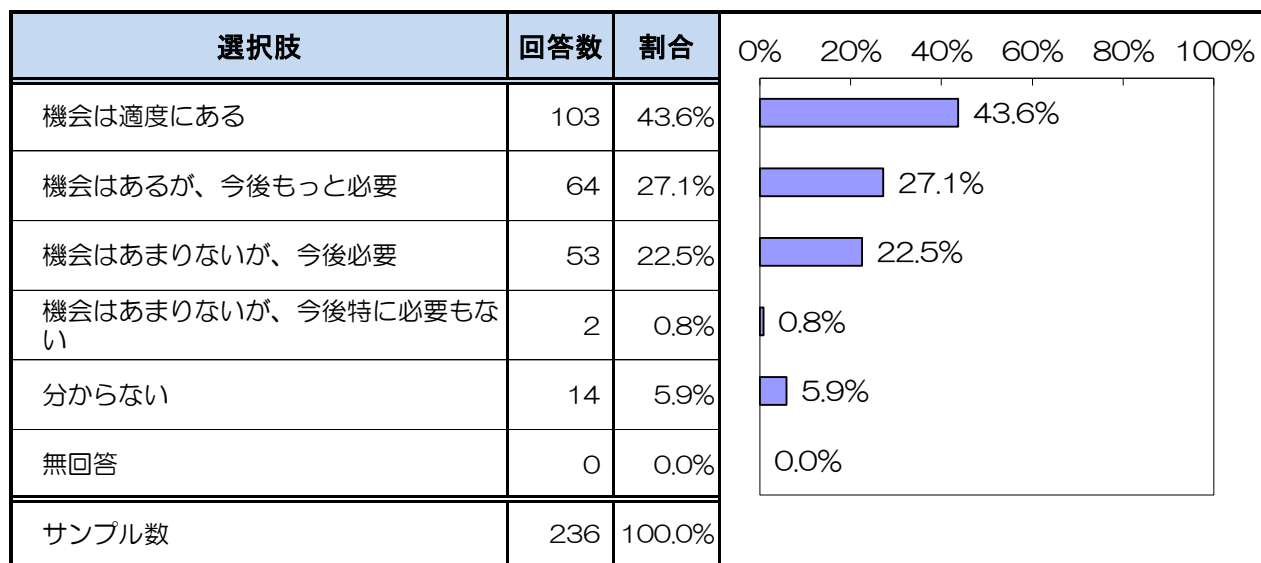
「人種・性別・宗教・障害・貧富の差・考え方などによって差別されないこと」が 89.8%と最も高く、次いで、「生きること・育つこと」の 86.9%、「教育を受けること」の 83.9%の順となっています。

選択肢	回答数	割合	0% 20% 40% 60% 80% 100%
人種・性別・宗教・障害・貧富の差・考え方などによって差別されないこと	212	89.8%	89.8%
生きること・育つこと	205	86.9%	86.9%
教育を受けること	198	83.9%	83.9%
親からの暴力やひどい扱いから守られること	197	83.5%	83.5%
医療・保険サービスを受けること	179	75.8%	75.8%
心や体を十分に成長させていけるような生活を送ること	171	72.5%	72.5%
誰からも幸せを奪われないこと	162	68.6%	68.6%
生活が難しい場合に、国からお金などのサポートを受けること	155	65.7%	65.7%
休んだり遊んだりすること	131	55.5%	55.5%
スポーツ・文化・芸術活動に参加すること	129	54.7%	54.7%
心や体によくない危険な仕事や就学に支障をきたす仕事から守られること	127	53.8%	53.8%
子どもに影響を与える全ての事柄について、自分の意見を自由に表すこと	126	53.4%	53.4%
子どもにかかわる全ての活動において、子どもの最善の利益が第一に考えられること	103	43.6%	43.6%
子ども同士で集まったり、活動のためのグループを作ったりすること	101	42.8%	42.8%
「子どもの権利条約」を知ること	100	42.4%	42.4%
大切だと思う権利はない	1	0.4%	0.4%
わからない	0	0.0%	0.0%
無回答	0	0.0%	0.0%
サンプル数	236	—	

問 30 子どもの権利条約は大きく4つの権利（①生きる権利②育つ権利③守られる権利④参加する権利）に分けられます。そのなかの④参加する権利に関して、子どもが自分の考えを言うことや様々な活動に参加する機会について、どのような状況だと思いますか。（単一回答）

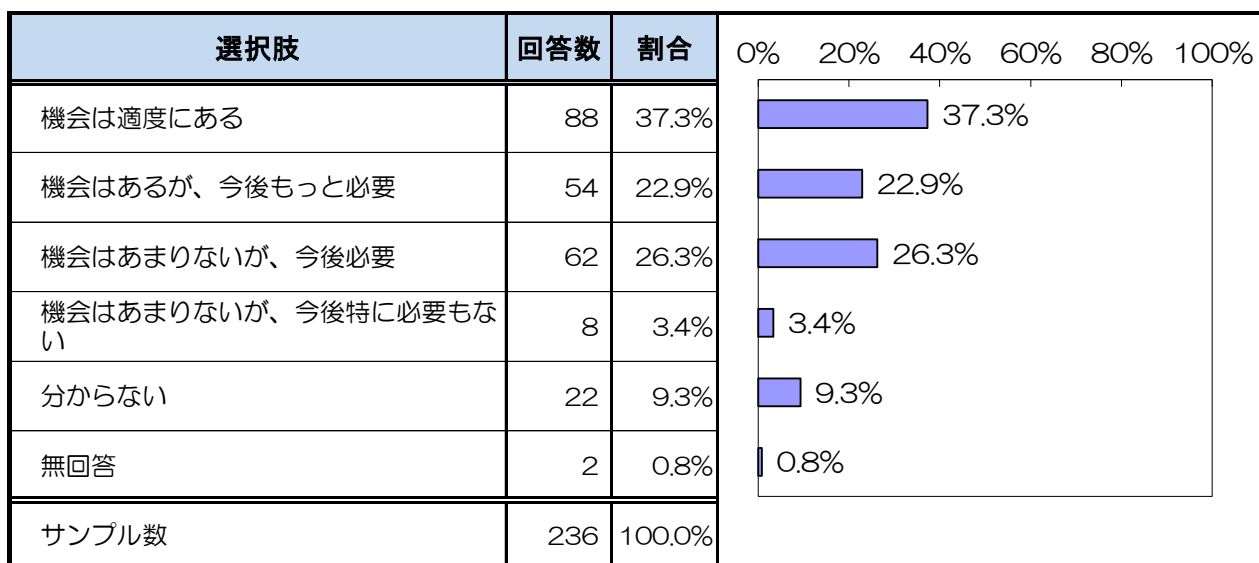
① 家庭で大事な物事やルールを決める時に意見を言うこと

「機会は適度にある」が 43.6%と最も高く、次いで、「機会はあるが、今後もっと必要」の 27.1%、「機会はあまりないが、今後必要」の 22.5%の順となっています。



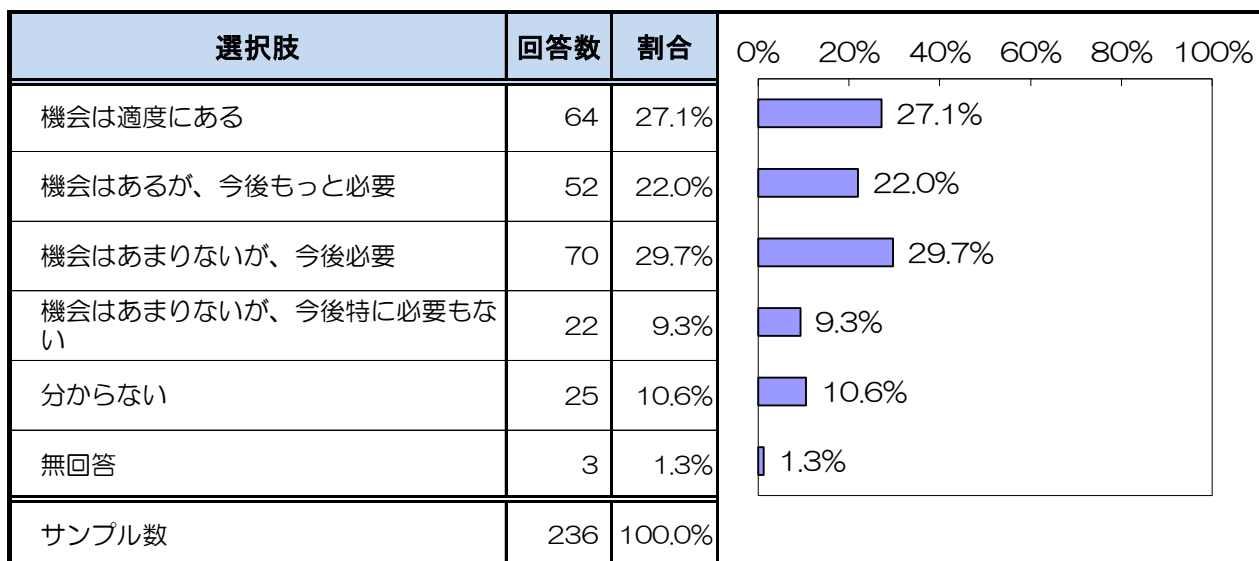
② 学校行事・イベントの企画運営に参加すること

「機会は適度にある」が 37.3%と最も高く、次いで、「機会はあまりないが、今後必要」の 26.3%、「機会はあるが、今後もっと必要」の 22.9%の順となっています。



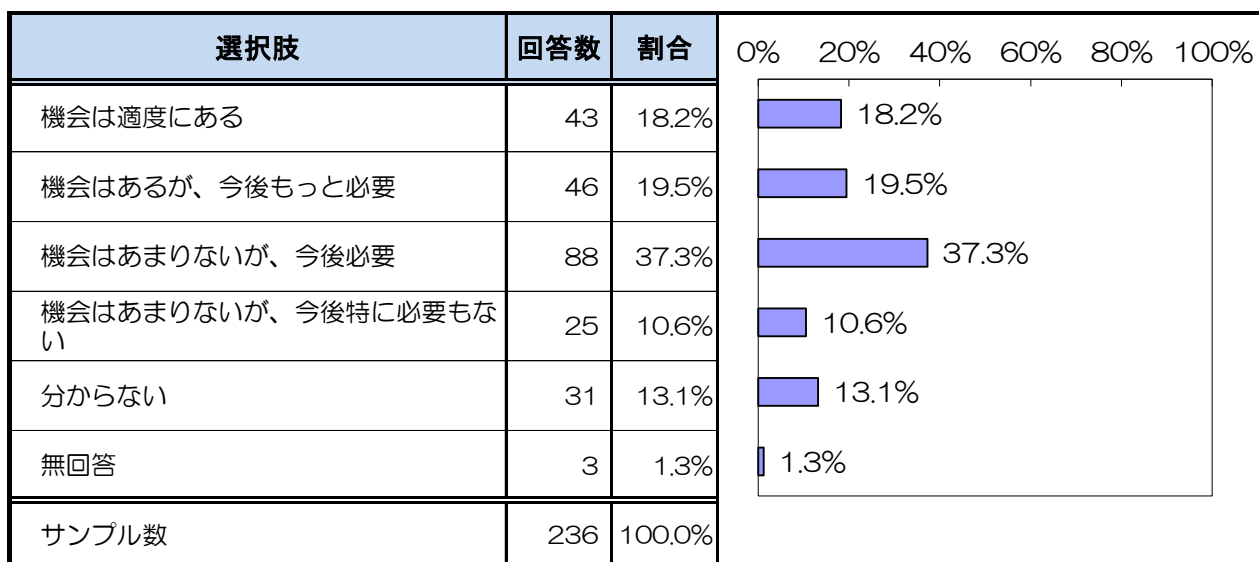
③ 学校等の部活動等の活動内容に意見を言うこと

「機会はありませんが、今後必要」が 29.7%と最も高く、次いで、「機会はあるが、今後もっと必要」の 22.0%、「機会はあるが、今後もっと必要」の 22.0%の順となっています。



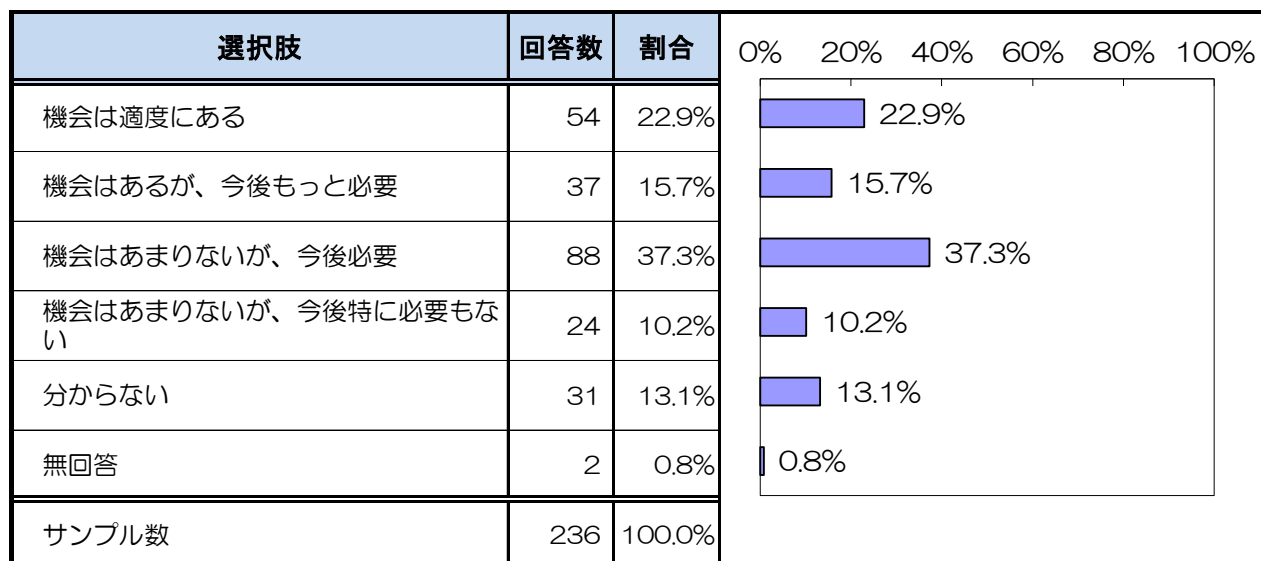
④ 学校の決まり事に意見を言うこと

「機会はありませんが、今後必要」が 37.3%と最も高く、次いで、「機会はあるが、今後もっと必要」の 19.5%、「機会はあるが、今後もっと必要」の 18.2%の順となっています。



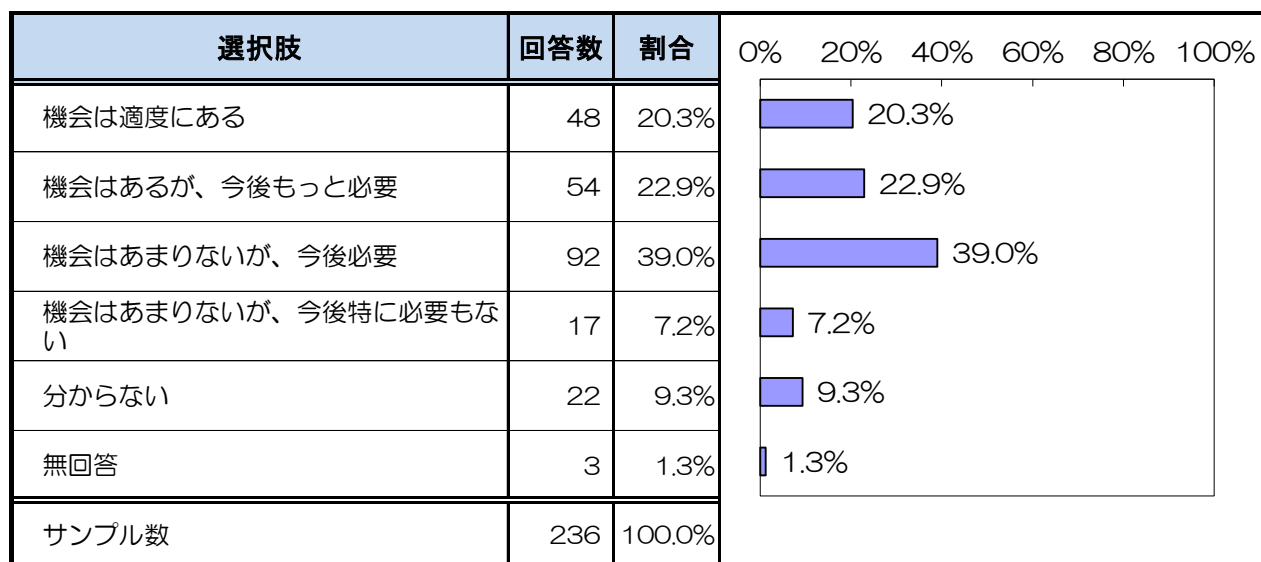
⑤ 地域の行事・イベントの企画・運営に参加すること

「機会はありませんが、今後必要」が 37.3%と最も高く、次いで、「機会はあるが、今後もっと必要」の 22.9%、「機会はあるが、今後もっと必要」の 15.7%の順となっています。



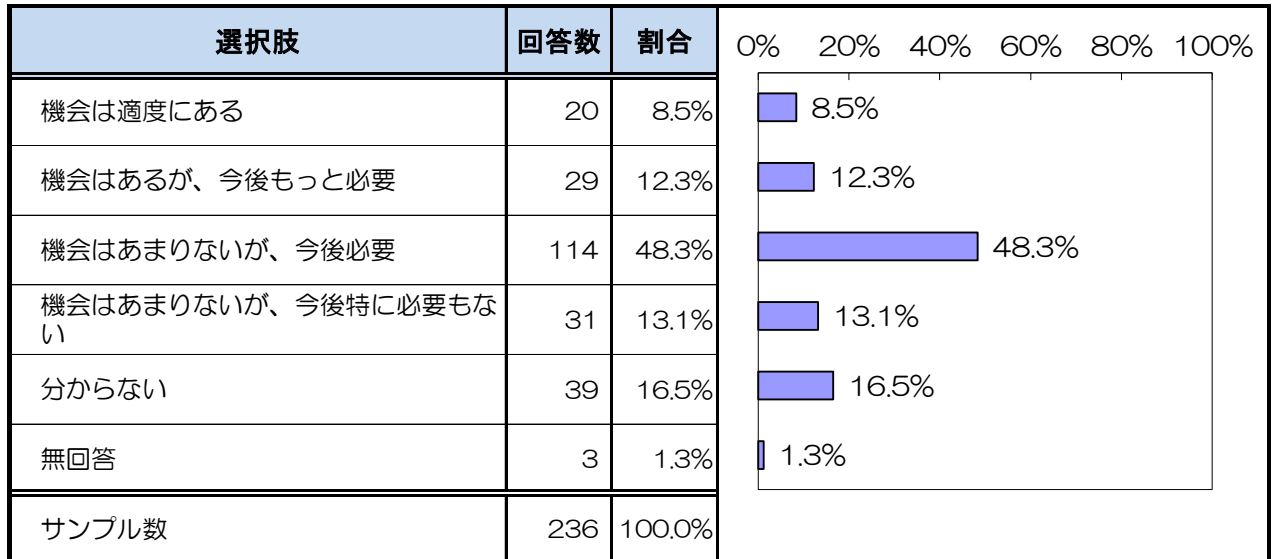
⑥ 地域のまちづくりやボランティア活動に参加すること

「機会はありませんが、今後必要」が 39.0%と最も高く、次いで、「機会はあるが、今後もっと必要」の 22.9%、「機会はあるが、今後もっと必要」の 20.3%の順となっています。



⑦ 鹿児島市政について意見を言うこと

「機会はありませんが、今後必要」が 48.3%と最も高く、次いで、「分からない」の 16.5%、「機会はありませんが、今後特に必要もない」の 13.1%の順となっています。



問 31 子どもが安心して自分らしく生き、社会参加しながら成長していくには、どのようなことが大切だと思いますか。意見があれば教えてください。

◆回答一覧（一部抜粋・原文まま）

回答内容	性別	年代	地域
核家族が多い中、近所との関わり方も必要だと思う。今の若い親にも“子供は宝”という言葉を知ってもらいたい。（悲しいニュースを観る度に思う。）子供の遊び場（公園等）を増やして、地域の方（年配の方等）と、出会う場所も必要。“地域で子育て”が出来れば相乗効果もあると思う。（昔のようになればいいと思いますが。）	男	40 歳代	吉野
子どもたち自身が自分の権利が保障されるものだというのを、まず知ることが大切だと思う。そのためには教育の場でそれを取り上げることが大切ではないか。また、親をはじめ、全ての大人がそのことに理解を深めることも同時に大切なことであり、職場、団体、地域をあげて啓発に取り組んでいきたい。適切な相談機関の開設も考えたい。	男	70 歳以上	谷山
大人が適切な情報を与えてあげること。勉強、法律、世の中の仕組みを、先入観をなるべく排除して、教えてあげること。子どもが判断に迷っていたら、助け舟を出してあげられること。大人が子どもに「魚を釣ってあげる」のではなく、「魚の釣り方を教えてあげる」ことが大切。大人が子どものやることを温かく見守ってあげることが大切、ただし、子どもが危機的な状況に巻き込まれる可能性が高い場合は、大人が手を差し伸べたり、体を張って守ってあげることが大切。	男	30 歳代	中央
子どもは自分で、出自を選ぶことはできません。どんな家庭に生まれても、学問の自由を保障してあげて欲しいと思います。私自身、子どもはいませんが、お金がない家庭に生まれたために、大学に進学できないこと等はあってはならないことだと思います。機会を平等にするために税金を使って欲しいと思います。	男	40 歳代	谷山